

발간등록번호

2023-센터지원-014호

2023 ソウル家族報告書

—
2018-2023 ソウル家族トレンド

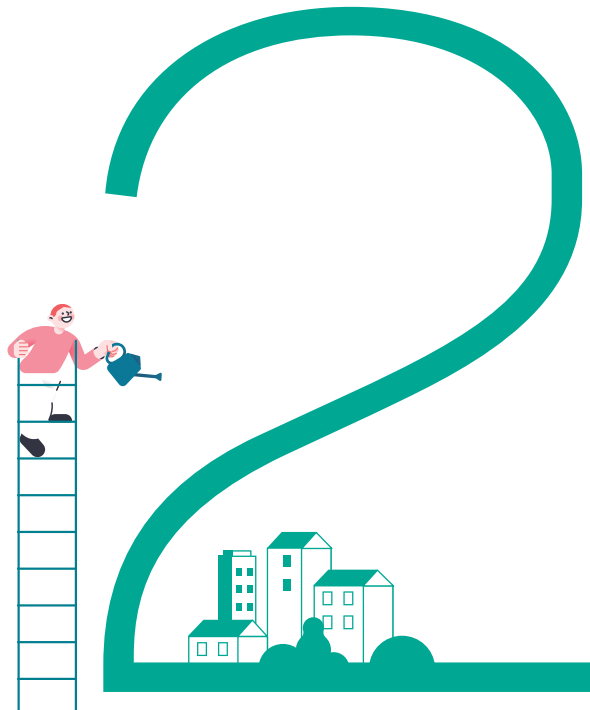
韓国語資料用要約本(日本語版)

2018
2019
2020
2021
2022
2023

2023 ソウル家族報告書

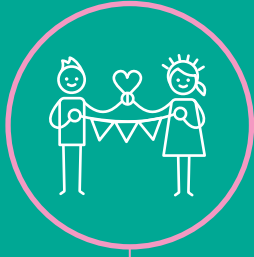
—
2018-2023 ソウル家族トレンド
韓国語資料用要約本(日本語版)

2018
2019
2020
2021
2022
2023



2015年から毎年発刊されているソウル家族報告書(韓国語)は家族の現状と家族に対する認識、変化を考察しています。ソウル市民を対象に国内外の家族政策を紹介します。この日本語版冊子は2023ソウル家族報告書の一部内容を掲載しています。家族サービス関連報告書はファミリーソウルホームページ(familyseoul.or.kr)で確認することができます。

一目で見る2023ソウル家族政策



結婚・青年

- 公共空間を活用した私たちだけの結婚式
- 新婚夫婦初出発宅ローン返済金
- ソウル家族学校
予備夫婦(結婚を控えたカップル)教室
- ソウル家族学校 新婚夫婦教室
- ブライダルチェック(結婚前検診)
- 青少年, 健康な食卓



妊娠・出産

- 出産ママ 体心のトータルケア
- 妊産婦共働き多子家庭家事サービス
- 不妊夫婦施術費支援
- 精・卵管復元施術費支援
- 卵子凍結施術費支援
- 高齢産婦検査費支援
- 多胎児の子供安心保険支援
- 配偶者の出産休暇義務化



多様な家族

- 青少年父母支援強化
- ひとり親家族支援強化
- 未婚の母・父養育支援強化
- 多文化家族ママさん学校運営
及び子供の言語指導



子供が2人以上の時

- 多子家族へのメリット拡大
- 多子世帯長期傳賃(チョンセ)
住宅供給拡大
- 3子女以上の世帯の第2子から
ソウルラン利用 (青少年)



詳しい内容は出産から子育てまでモンタン情報万能キーでご確認下さい。
万能キーでは多文化、ひとり親など、多様な家族向けのサービスを提供しています。

✓ 子供が0-2歳の時



- ソウル型子供ケア支援 (24~36カ月)
- ソウル型0歳専用クラス試験運営(~12カ月)
- ソウルママパパタクシーi.M (~24カ月)

✓ 子供が0-5歳の時



- 近所の高品格公立保育施設拡充 (~5歳)
- ソウル子供発達支援センター開所(~5歳)
- 育児専門家による子育てコーチ支援(~5歳)
- 育児支援コーディネーター(~5歳)

✓ 子供が0-6歳の時



- 365日! 24時間! 乳幼児緊急保育支援
- ソウル型連携保育園120か所共同体拡大
- 乳幼児専用安心子供ケア支援事業
- 働く夫婦安心2倍! 保育園夕食支援
- ソウル市おもちゃ図書館拡大

✓ 子供が0-9歳の時



- パパママ幸福子育てメント「ありがとう」特講
- 小学生放課後緊急一時ケア強化 (6~12歳)
- 出産・育児尊重認識改善キャンペーン
- 児童期父母教育(8~13歳)
- 子育て達人パパになろうプログラム
- 主要経済団体と協力し子育てしやすい企業文化定着
- わが街のキウムセンター夏冬休み無料昼食提供
- 投資・出資機関の仕事・生活バランス制度拡散
- ソウルパパママVIPゾーン
- パパママ育児休業奨励金支援
- バリアフリートイレ
- 育児休業使用活性化
- 思いやり駐車場
- 育児期勤労時間短縮使用勧告制
- ソウルキッズオーケーゾーン
- ウーマンアッププロジェクト (経歴保有女性支援)
- ソウル型キッズカフェ拡大
- ヒーリングタイム文化プロジェクト
- 病児一時ケア・病院同行サービス (~12歳)
- パパママハッピータウン
- パパママ万能子育てポータル「万能キー」
- 登下校支援事業(~12歳)
- お父さん教室
- ファミリーシェフ
- 仕事帰り家庭幸福弁当・ミールキット割引支援(~18歳)
- 学童保育公式インフラ拡充

一目で見る2023ソウル家族報告書

第1章 ソウル家族の誕生



20 - 30代ソウル市民65%
“結婚する意向あり”

結婚に対して肯定でも否定でもない
態度増加

ソウル市民70%
“理想的な子供の数は2人”

最も効果的な少子化対策
“養育費、教育費支援”

ソウル市主要政策・サービス

▽ 青年、健康な食卓

料理教室と健康プログラムを通じ、単独世帯の青年の健康的な食生活習慣の形成および単独世帯の社会関係網の形成を支援

▽ 公共スペースを活用した自分たちだけの結婚式

市民の目線にあった公共式場を発掘し、リーズナブルな費用で個性的で意味のある結婚式を総合的に支援

▽ 不妊夫婦の施術費支援

所得に関係なくすべての不妊夫婦に対し施術の種類を問わず合計22回まで施術費支援

▽ 高齢妊婦の検査費支援

35歳以上の妊婦に対し病院検査費を最大100万ウォン支援

▽ 多子家庭への援助拡大

多子家庭の基準を3人から2人に緩和し、第2子からソウル市公共施設を全面無料、または半額で利用可能

第2章 ソウル家族の養育



子育て、幸せでもあるが大変なこと

ソウルの養育者たち
“韓国社会は親の役割を応援してくれない”

子育ての役割分担の男女不均衡は依然として存在

パパママの仕事 - 生活のバランスが育児ストレス減少のカギ

ソウル市主要政策・サービス

▽ 365日24時間すべての乳幼児緊急保育支援

共働き夫婦、夜間週末勤務の父母などのために未就学乳幼児家庭に夜間延長や24時間、公休日の保育サービス提供

▽ ソウル型隙間育児3種サービス

満12歳以下児童を育てる養育空白家庭を対象に子どもの登下校、病児の病院同行、及び養育支援など提供

▽ ソウル市仕事 - 生活バランス3種セット

配偶者の出産休暇義務使用制、育児休暇の使用可能な雰囲気づくり、育児期勤労時間短縮使用勧告制導入

▽ ソウルママパパタクシー-i.M(アイ.エム)

24か月以下の幼児家庭のお出かけ、および外出時に必要な広い積載スペース、チャイルドシートなどを備えたタクシー利用券を提供

▽ ソウルママパパVIPゾーン指定

道路、文化施設、公園、水辺空間などの公共施設に保護者と子供専用空間“ソウルママパパVIPゾーン”造成、および拡大

詳しくは『2023ソウル家族報告書』本文をご覧ください。

第3章 ソウル家族の関係



家族の属性のうち血縁関係の重要性減少、
心理的な絆の重要性増加

恋人のような幸せな新婚夫婦関係、
その後も幸福感を維持できるように支援必要

既婚女性は男性より“夫婦関係はあまり平等ではない”
交際中の女性は男性より“恋人関係がより平等”

年齢が低いほど高齢の父母を経済的に
支えなければならないと考える

ソウル市主要政策・サービス

✓ ソウル市家族旅行支援

ソウル幸せ旅行事業を通じ、観光疎外層に家族旅行を支援、非正規労働者に国内旅行商品を購入できるソウル型旅行バウチャー提供

✓ ソウル市新婚夫婦学校

新婚期に経験する問題や葛藤を克服し、健康的な結婚生活を営むために夫婦準備教育、夫婦関係深層面談、財務相談などのプログラム提供

✓ 結婚前検診(ブライダルチェック)

健康的な夫婦関係を維持したい夫婦を対象に夫婦の問題を把握し葛藤を予防し対処できるよう家族センターで健康診断を実施

✓ ソウル市家族ケア青年支援

身体疾患や障害を持つ家族をケアするソウル市青年に就労支援、心理相談、看病サービスなど、パーソナライズサービス支援

第4章 ソウル家族の生活



最も負担になる支出項目、“住居費負担”

20 - 30代ソウル市民 32.7%
マイホーム所有可能性“低い”

家族に優しい組織文化、
仕事と生活バランスの第一歩

30代以上のソウル市民、仕事、社会関係、
個人生活より“家族”を重要視…

ソウル市主要政策・サービス

✓ ソウル市(結婚を控えた)新婚夫婦住居支援政策

(結婚を控えた)新婚夫婦の住居費負担を軽減したり、新婚夫婦の賃貸保証金の融資限度額、及び利子支援の拡大

✓ ソウル市貸借支援センター、およびチャットボットサービス

賃貸詐欺のような被害補償を支援するため貸借支援センターを通じ専門家による無料相談サービス提供。ソウルトークにて賃貸詐欺予防及び対応手順を案内してもらえチャットボットサービス提供

✓ ソウル市仕事・生活バランス支援センター

仕事 - 生活のバランスに対する研究、及び企業コンサルタント実施

✓ ソウル市家族センター ファミリーソウルウェブサイト

ソウル市家族センターポータルサイト、ファミリーソウルで教育、相談、文化など、ソウル市25の自治区家族センターで提供するサービスの情報提供



01. 夫婦の誕生



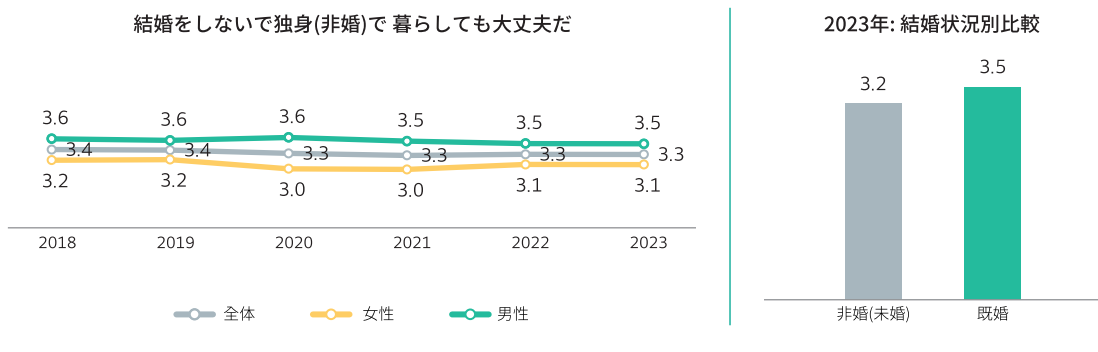
[ソウル家族調査] 結婚および非婚に対する意識

「独身(非婚)で暮らすより結婚した方が良い」という項目と「結婚をせずに独身(非婚)で暮らしても良い」という項目についてどの程度同意するかを問い、結婚および非婚に対する意識を調べた。

「独身(非婚)で暮らすより結婚した方が良い」に対する同意レベル(範囲：1-5点)は、2023年、平均3.3点で普通よりやや高い水準だった。最近6年間同様の水準が維持されているが、結婚に対する肯定でも否定でもない態度(「普通だ」)が増加傾向にある。2023年平均を基準に男性(3.5点)が女性(3.1点)より、既婚(3.5点)が非婚(未婚)(3.2点)より同意レベルが有意に高かった。

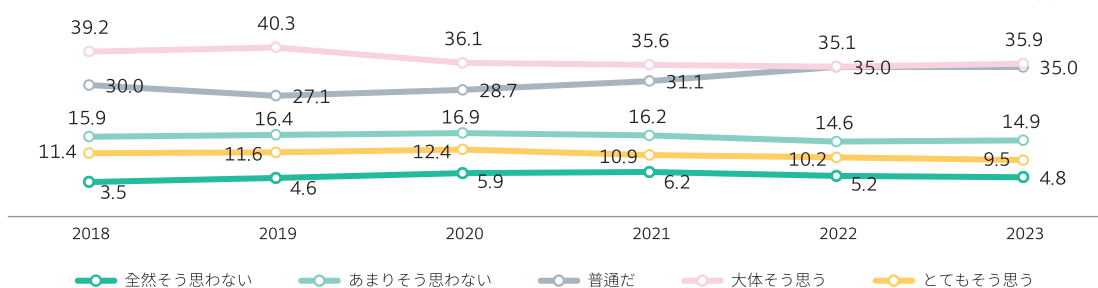
結婚に対する意識：全体、および性別、結婚状況別(2018-2023年)

<単位: 点>



独身(非婚)で暮らすより結婚した方が良い

<単位: %>



資料: ソウル家族サーベイ、各年度

「独身(非婚)で暮らすより結婚した方が良い」に対するソウル市民の同意レベル(範囲：1-5点)は普通よりやや高い水準で、結婚に対して肯定でも否定でもない態度が増加傾向にあります。

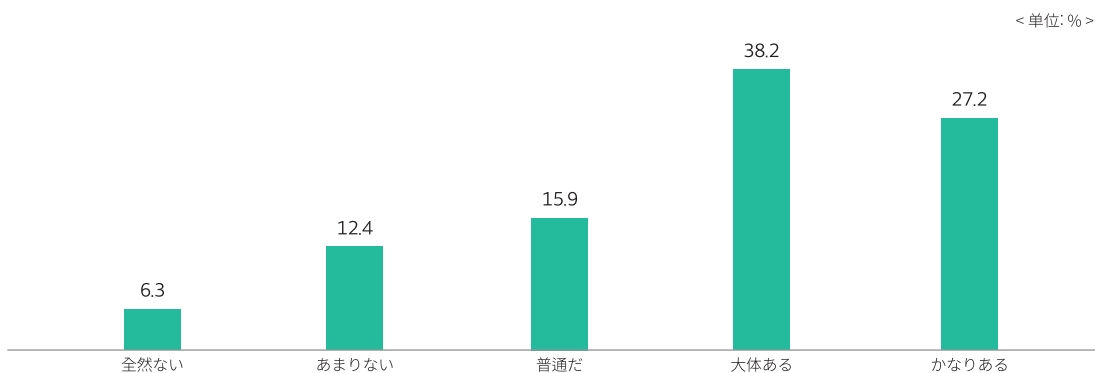
結婚せずに独身(非婚)で暮らしても構わない」に対する同意レベル(範囲：1-5点)は、2023年平均3.5点で、「普通だ」と「ややそうである」の中間レベルであった。女性が男性より、非婚(未婚)が既婚より独身(非婚)に対してやや肯定的であった。



[ソウル家族サーベイ] 結婚の意向

結婚したことがない20-30代が結婚する意向(範囲：1-5点)は、最近6年間普通より高い水準を維持しており、2023年には女性と男性の結婚の意向が2022年に比べて増加した。2023年に結婚する意向があると回答した割合('大体ある'+ 'かなりある')は65.4%であり、結婚意向する平均の男女差は有意であった。

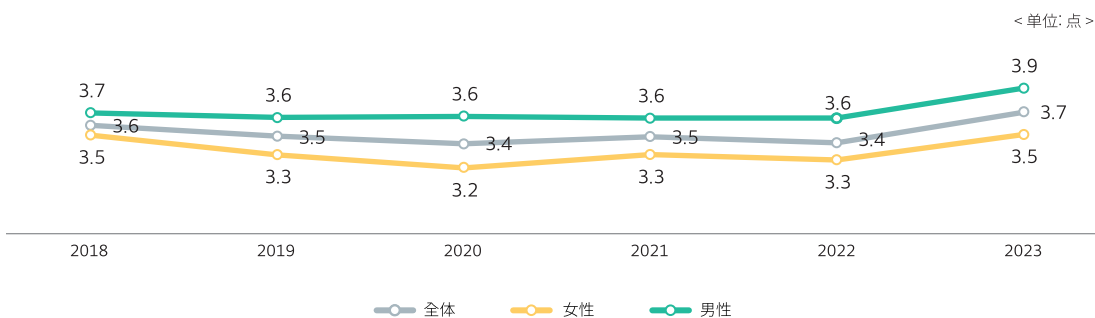
結婚意向：全体(2023年)



資料：2023ソウル家族サーベイ(結婚したことがなく、子供がいない20-30代の回答者 555人)

20-30代非婚(未婚)ソウル市民の65.4%は、「結婚する意向が大体ある」、または「かなりある」でした。

結婚意向：全体、および性別(2018-2023年)

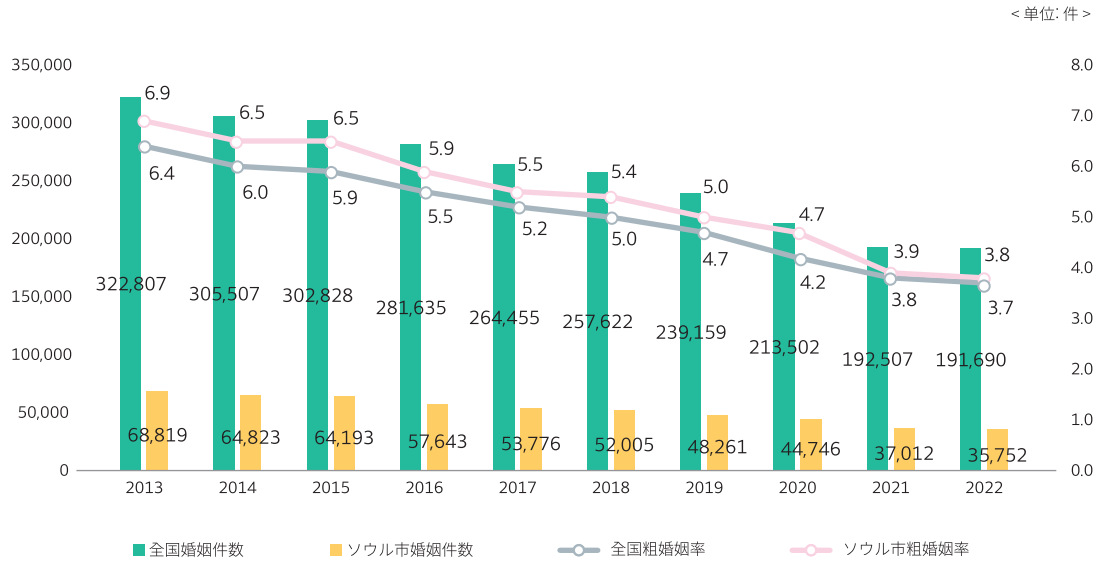


注: 2018-2020年は「あなたはこれから結婚する意思がありますか?」、2021-2022年は、「私が結婚する意向」、2023年は「(いつか)結婚する意向(再婚も含む)」に対して1-5点で回答した

資料: ソウル家族サーベイ、各年度(結婚したことがなく、子供のいない20-30代回答者 2018年 266人、2019年 510人、2020年 664人、2021年 607人、2022年 603人、2023年 555人)

20-30代非婚(未婚)ソウル市民の結婚意向は「大体ある」に近く、男性が女性よりも高いです(範囲：1-5点)。

ソウル市婚姻件数、および粗婚姻率(2013-2022年)



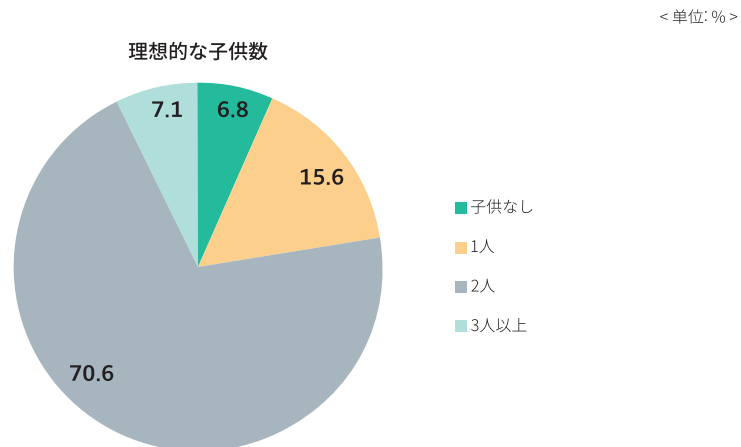
注: 粗婚姻率は1年間に発生した総婚姻件数を当該年の住民登録年央(7月1日)人口で割った数値を1,000分率で表したもので、人口1,000人当たりの婚姻件数を意味する
資料: 統計庁、国勢調査、各年度

ソウル市の総婚姻件数は35,752件、粗婚姻率は3.8件(2022年基準)。

2013年から2022年までの最近10年間、ソウル市の婚姻件数と粗婚姻率は持続的に減少しています。

02. 父母の誕生

理想的な子供の数：全体(2023年)



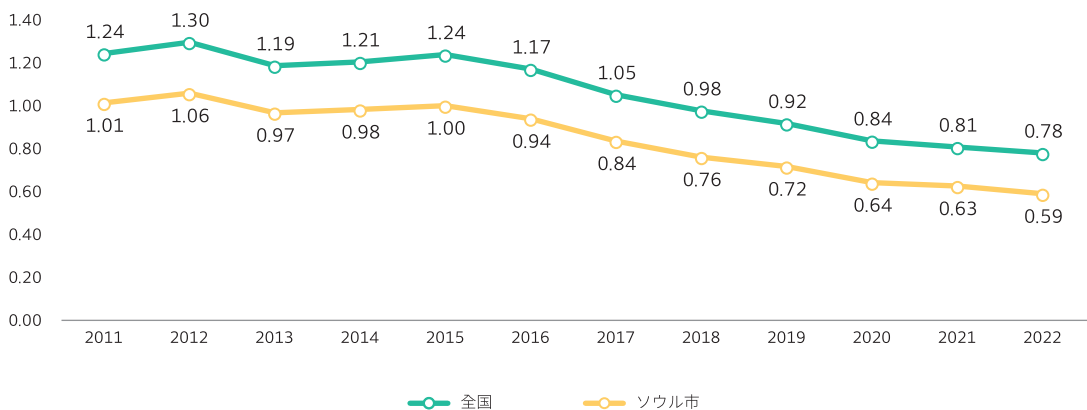
資料: 2023 ソウル家族サーベイ

ソウル市民の70.6%は、子供が2人いることが理想的と考えていることがわかりました。

ソウル市の2023年合計特殊出生率0.59と、理想的な子供のの数とは差があります。

ソウル市合計特殊出生率(2011-2022年)

<単位: 人>



注: 合計特殊出生率は、女性1人が可妊期間(15-49歳)に産むと予想される平均出生児数で、年齢別出生率の合計を意味する
資料: 統計庁、国勢調査、各年度。
統計庁、報道資料、2022.12月人口動向、2022.

ソウル市の合計特殊出生率は2011年から2022年までの最近13年間持続的に減少し、2022年には0.59まで低下しました。これは全国平均合計特殊出生率0.78より低いだけでなく、全国で最も低い数値です。



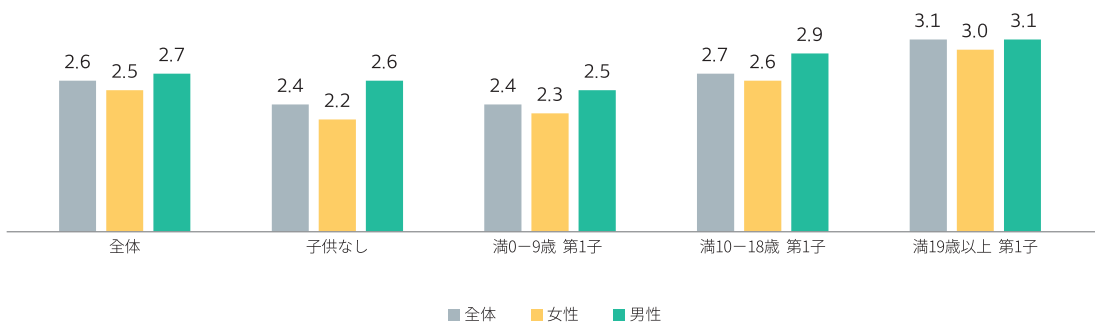
[ソウル家族サーベイ] 親になることに対する態度

ソウル家族サーベイでは、親になることに対する肯定的、否定的な態度を2018年から2023年まで毎年調査してきた。親になることに対する肯定的な態度の項目のうち、「子供の成長を見守ることは人生で最も大きな楽しみである」という項目に対する同意レベル(範囲: 1-5点)は、普通よりやや高い水準を維持した。親になることに対する否定的な態度の項目の中では「子供を育てることは経済的に負担がかかる」という項目の同意レベルが持続的に最も高かった。

韓国社会における親の役割に対する応援: 全体、および子供の年齢帯別(2023年)

<単位: 点>

韓国社会は父母の役割を応援してくれる



注: 子供のいない集団は結婚の有無に関わらず全体の回答者のうち子供がいない場合である

資料: 1) 2023 ソウル家族サーベイ(全体、子供なし 884人)

2) 2023 ソウル家族サーベイ& 2023 ソウル養育者サーベイ(第1子満0-9歳 923人、満10-18歳 151人、満19歳以上232人)

ソウル市民は「韓国社会は親の役割を応援してくれる」(範囲: 1-5点)に、普通より低いレベルで同意し、子供がいないか、子供が幼い集団がより同意していません。



[ソウル家族サーベイ&ソウル養育者サーベイ] 効果的な少子化対策

効果的な少子化対策を3つ選択させた結果、「養育費、教育費(費用支援)」という回答が最も多かった。二番目に多い回答は集団別に異なり、男性と非婚(未婚)は「経済(物価、雇用、賃金など)」、女性と子供なしは「育児休業、労働時間短縮」、既婚は「機関保育・ケア」だった。第1子の年齢帯別に二番目に多い回答は、乳幼児期の子供を持つ集団は「育児休業、労働時間短縮」、幼児期の子供を持つ集団は「機関保育・ケア」、小学生の子供を持つ集団は「経済」だった。三番目に多い回答は男性と子供なし集団は「住居」、女性と既婚集団では「経済」、非婚(未婚)は「育児休業、労働時間短縮」だった。子供のいる集団の中で乳幼児期の子供のいる集団は「機関保育・ケア」、幼児期の子供のいる集団は「機関保育」、子供のいる集団中、幼児がいる集団は「育児休業、労働時間短縮」、小学生の子供がいる集団は「住居」と回答した比率が3位であった。

効果的な少子化対策(3つ選択)(2023年)

<単位:人>

集団	1位		2位		3位	
全体 ^{a)}	養育、教育費	783	経済	607	住居	562
女性 ^{a)}	養育、教育費	356	育児休業、労働時間短縮	322	経済	290
男性 ^{a)}	養育、教育費	427	経済	317	住居	306
既婚 ^{a)}	養育、教育費	419	機関保育・ケア	278	経済	274
非婚(未婚) ^{a)}	養育、教育費	327	経済	309	育児休業、労働時間短縮	289
子供なし ^{a)}	養育、教育費	403	育児休業、労働時間短縮	326	住居	307
乳児の親 ^{b)}	養育、教育費	149	育児休業、労働時間短縮	116	機関保育・ケア	107
幼児の親 ^{b)}	養育、教育費	171	機関保育・ケア	145	育児休業、労働時間短縮	117
小学生の親 ^{b)}	養育、教育費	159	経済	111	住居	109

注: 1) 3つの回答項目を選択し複数選択をしたもの

2) 子供のいない集団は結婚有無に関係なく全体の回答者のうち子供がいない場合

資料: a) 2023 ソウル家族サーベイ(全体、子供なし 884人)

b) 2023 ソウル養育者標本(乳児の親 284人、幼児の親 346人、小学校低学年の親 293人)

ソウル市民が最も多く選択した効果的な少子化対策は「養育費、教育費の支援」。

2023 SEOUL
FAMILY
POLICY

養育者の健康のためのソウル市政策・サービス

出産ママ心体のトータルケア

ソウル市のママとパパの幸せプロジェクトの一環である「出産ママ心体のトータルケア」は、出産後の迅速な身体的・心理的回復を支援するさまざまな健康プログラムを提供し、出産ママの健康的な育児を支援する。

資料: <https://news.seoul.go.kr/welfare/archives/546681>

구분	서울맘 찾아가는 행복 수유 지원	행복맘 지원 건강 플랫폼 운영	산모신생아 건강관리사 배우처	산후 우울증 정신건강 서비스 강화
대상	출산 후 8주 이내 출산가정	2022.1.1. 이후 출산맘 1,000명	출산후 60일 이내 출산가정	출산 전·후 2년 이내 임산부
주요내용	<ul style="list-style-type: none"> · (4)태함조산협회의 모유수유 전문인력 양성과정을 이수한 조산사간호사 (모유수유매너제) 가정 방문 · 모유수유 매니저의 유방관리서비스 및 모유수유 교육(최대 2회) 	<ul style="list-style-type: none"> · 스마트 밴드와 관음 업을 통한 건강관리 서비스 및 출산맘 특화정보 제공 	<ul style="list-style-type: none"> · 건강관리사 교육을 이수한 산모·신생아 건강관리사를 파견하여 산모 산후 회복과 신생아 양육 지원(1일 8시간 (9-18시)) ※ 단, 기저활동지원은 산모서비스비, 산모와 신생아의 공간청소및세탁에 한함 	<ul style="list-style-type: none"> · 「서울이 건강찾겠습니다」 전담간호사가 출산가정을 방문하여 산후우울 검사 및 고위험자 정신건강복지센터 연계 · 정신건강복지센터 정신건강 심층상담 및 고위험군 전문의료기관 연계
이용요금	무료	무료	자녀수, 서비스기간, 소득기준 등에 따라 이용금액 상이	무료

2



ソウル家族の養育

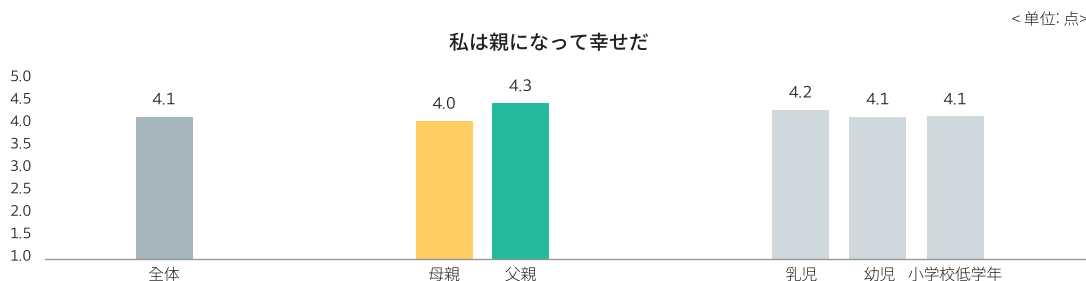
01. 父母の役割および子供のケア



[ソウル市養育者サーベイ] 父母としての幸せと後悔

満0-9歳の第1子を持つ親を対象に「私は親になって幸せだ」という項目に対する同意レベル(範囲：1-5点)を調査した結果、平均4.1点で比較的高い水準であることが分かった。父親の同意レベルが母親より有意に高かったが、子どもの発達段階別に有意差はなかった。一方、「私は親になったことを後悔している」(範囲：1-5点)の平均は1.8点で、2点(「あまりそうではない」)より低く、父親が母親より有意に低い水準だった。この項目でも子どもの発達段階別の差は有意ではなかった。

親としての幸福：満0-9歳の子供を持つ親全体、および性別、子供の発達段階別(2023年)

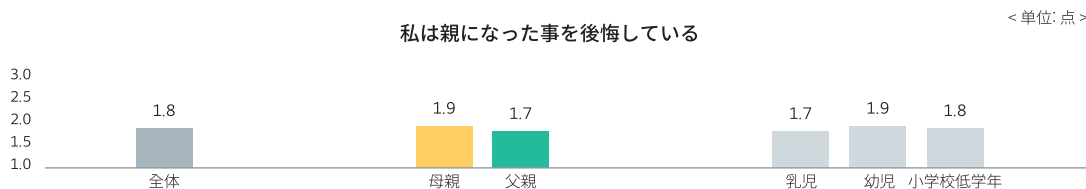


注: 乳児は満0-2歳児の親、幼児は満3歳以上未就学児の親、小学校低学年は満9歳以下就学児童の親を意味する(第1子基準)

資料: 2023 ソウル養育者標本 923人

ソウル市の養育者は「私は親になって幸せだ」に概ね同意し、**父親が母親より高いレベルで同意しています**(範囲：1-5点)。

親になることへの後悔：満0-9歳の子供の親全体、および性別、子供の発達段階別(2023年)



注: 乳児は満0-2歳児の保護者、幼児は満3歳以上の未就学児の保護者、小学校低学年は満9歳以下の就学児の保護者を意味する(第1子基準)

資料: 2023 ソウル養育者標本 923人

ソウル市の養育者は「私は親になったことを後悔している」にあまり同意せず、**父親が母親よりも同意していません**。(範囲：1-5点)



[ソウル養育者サーベイ] 親の役割の難しさ

満0-9歳の第1子を持つ親に、親として経験する身体的、精神的、経済的、職業的、関係的、空間的・環境的、ケアの空白による困難(範囲：1-5点)について質問した。各領域別の平均は、身体的困難(3.6点)>精神的困難(3.5点)、職業的困難(3.5点)>経済的困難(3.4点)>ケア空白による困難(3.2点)>空間的・環境的困難(3.1点)>関係的困難(2.8点)の順だった。親の性別では、母親が父親よりも身体的、精神的、職業的な困難とケア空白による困難を有意に高いレベルで経験した。

子どもの発達段階別では、身体的困難の面では、乳児期の親が幼児期の親より、幼児期の親が小学校低学年の親より多くの困難を経験した。職業的困難の面では、幼児期の親が小学校低学年の子どもの親より有意に高いレベルの困難を報告した。空間的・環境的困難の側面では、乳児期及び幼児期の親が認識した困難が小学校低学年の子どもの親より有意に高かった。最後に、ケア空白の側面では、乳児期及び幼児期の親が小学校低学年の子どもの親よりも困難を多く経験した。

共働きの有無別では、経済的な面で、共働き以外の世帯が共働き世帯より高いレベルの困難を経験した。逆に、ケア空白の面では、共働き世帯が共働き以外の世帯よりも困難を多く経験した。以上のように言及された側面以外に、性別、子どもの発達段階別、共働きの有無による差は統計的に有意ではなかった。

02. 養育者の仕事-生活のバランスと余暇

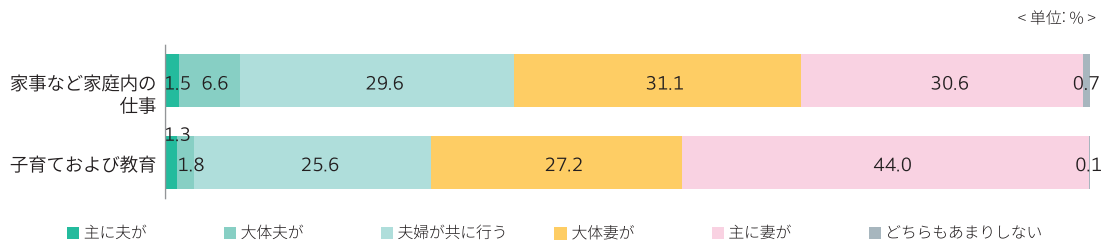
この部分では、ソウル市「ママとパパの幸せプロジェクト」の政策対象である0~9歳の子どもの親の仕事と生活のバランス及び余暇について調査した結果を紹介する。



[ソウル養育者サーベイ] 養育者の仕事-生活の葛藤

過去1週間に経済活動をしたと回答した親の仕事 - 生活の葛藤を、仕事→家族の葛藤、家族→仕事の葛藤、仕事-余暇の葛藤、仕事-成長の葛藤に分けて調べてみた。仕事による家族生活での葛藤(仕事→家族)と家族生活による仕事での葛藤(家族→仕事)は、いずれも平均2.4-2.5点(範囲：1-5点)と普通より低い水準であった。仕事-余暇の葛藤及び仕事-成長の葛藤は、いずれも平均3.0-3.1点(範囲：1-5点)と普通レベルであった。

母親と父親の家事および育児の分担：満0-9歳児を持つ親全体(2023年)

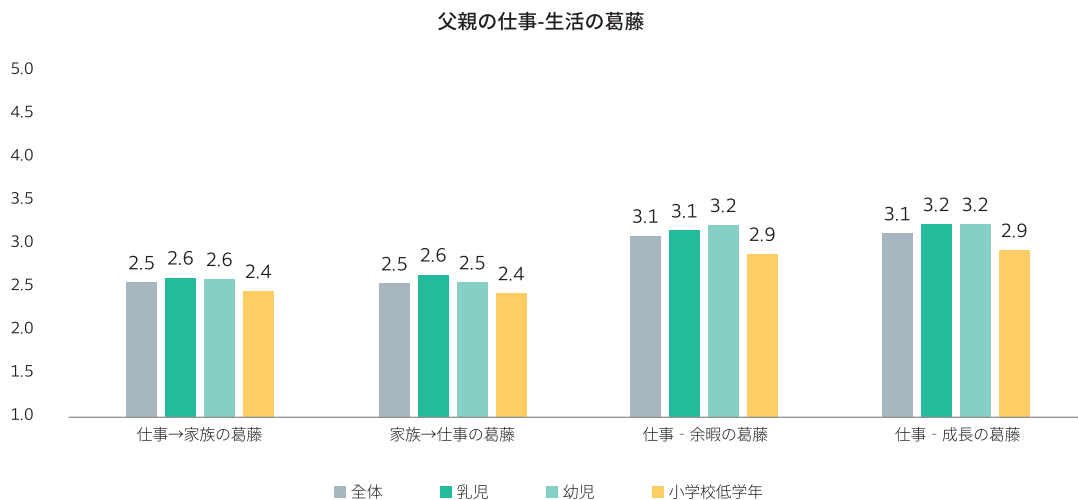
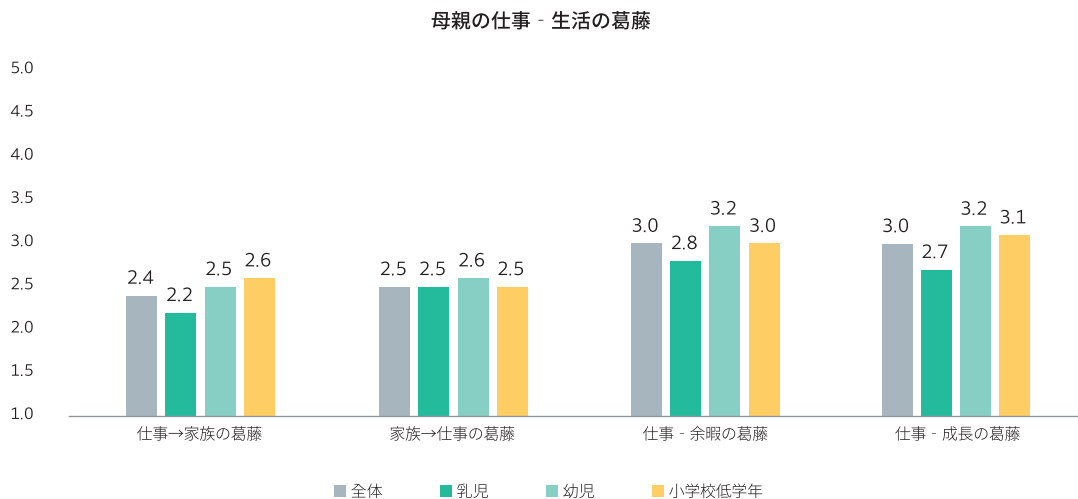


資料: 2023 ソウル養育者標本 923人

満0-9歳の子どもの持つソウル市民のうち、家事など家庭内の仕事を主に、または大部分を母親が行う割合が61.7%、子育てや教育を主に、または大部分を母親が行う割合は71.2%でした。家庭内の家事及びケア労働は母親が行う場合が多いことがわかりました。

母親と父親の仕事-生活の葛藤：満0-9歳の子どもを持つ経済活動をしている親全体および子どもの発達段階別(2023年)

<単位:点>



注:1)「あなたは過去1週間、お金を受け取って1時間以上働いたか、お金を受け取らずに家族が経営する店や工場、農場などで18時間以上働いたことがありますか」に「働いた(1)」と答えた親だけを分析した

2) 仕事→家族の葛藤5問、家族→仕事の葛藤4問、仕事-余暇の葛藤5問、仕事-成長の葛藤5問の平均を使用した

3) 乳児は満0-2歳児の親、幼児は満3歳以上の未就学児の親、小学校低学年は満9歳以下の就学児の親を意味する(第1子基準)

資料:2023 ソウル養育者標本(就職母 214人、就職父 402人)

小学校低学年の子どもの母親は、乳幼児期の子どもの母親よりも仕事→家族の葛藤を多く経験しています(範囲:1-5点)。幼児期の子どもの父親は、小学校低学年の子どもの父親よりも仕事-余暇の葛藤を多く経験しています。

2023 SEOUL FAMILY POLICY

ソウル市ママとパパの幸せプロジェクト

ソウル市「ママとパパの幸せプロジェクト」は、親の現実的な育児負担を軽減し、子育て活動が尊重される社会的雰囲気を作り、子育てしやすいソウルを作ること为目标に、0-9歳の子どもを持つ母親と父親(養育者)の幸せに焦点を当てたソウル市初の総合計画である。成長過程で最もケアを必要とする0-9歳の子供たちをソウル市が一緒に育てるという覚悟で、親が子供の年齢層別、状況別に経験する困難に対する実質的なソリューションを提供する。このプロジェクトは、①安心ケア、②快適な外出、③健康・癒し、④仕事と生活のバランスの4つの分野の28の細部事業で構成されている。



資料: 1) ソウル市(2022)。オ・セフン市長、「ママとパパの幸せプロジェクト」本格始動...子育てしやすいソウルに報道資料
2) <https://news.seoul.go.kr/welfare/archives/546224>

2023 SEOUL FAMILY POLICY

安心ケアを支援するソウル市の政策・サービス

ウリドンネキウムポータル

ソウル市は、乳幼児、小学生、中学生を対象としたケアサービスを一目で確認し、ケアサービスをオンラインで申請できるように「ウリドンネキウムポータル」(<https://icare.seoul.go.kr>)を運営している。

資料: <https://icare.seoul.go.kr/icare/index.do>



365日! 24時間! すべての乳幼児の緊急保育支援

ソウル市は、未就学児や緊急保育が必要な乳幼児がいる共働き夫婦、夜間または週末に勤務する親など、緊急保育や一時保育が必要なときに安心して子どもを預けることができる様々なタイプの保育サービスを提供している。具体的な内容は下表の通り。

구분	거점형 야간보육	365열린보육	주말보육	시간제보육
대상	모든 취학 전 영유아	긴급보육이 필요한 영유아(6개월-만6세)	모든 취학 전 영유아	긴급보육이 필요한 영유아(6월-36개월)
주요내용	평일 16:00~22:00 연장-야간연장 보육 및 석식 제공	365일, 24시간 보육 및 식사 제공 ※ 신경,구장, 추석연휴, 성탄절 제외	토·일요일 보육서비스 제공	평일 09:00~18:00 시간제보육 제공
이용요금	무료(석식비 지불)	시간당 3천원	시간당 3천원	시간당 1천원
이용방법	「서울보육포털」에서 어린이집 검색-선택 → 예약신청 신청하러 가기	「서울보육포털」에서 어린이집 검색-선택 → 예약신청 신청하러 가기	「서울보육포털」에서 어린이집 검색-선택 → 예약신청 신청하러 가기	「아이사랑」에서 온라인 예약 또는 전화신청 (☎1661-9361) 신청하러 가기

資料: <https://news.seoul.go.kr/welfare/archives/546692>

ソウル型0歳専用クラスの運営

ソウル市は、母親や父親が社会経済活動を続けながら安心して子供を保育園に預けることができるよう、12か月未満の乳児を丁寧にケアする「ソウル型0歳児専用クラス」を2023年3月から運営している。24か月未満の乳児で構成される保育園の一般的な「0歳児クラス」とは異なり、「ソウル型0歳児専用クラス」は12か月未満の乳児のみで構成される。また、細やかなケアが必要な生後12か月未満の乳児を安全に保育するため、乳児専用保育室で専門教育を修了した保育士が法定基準(1人当たり3人)より少ない2人の子どもを保育する。2023年8月現在、合計69の保育園が「ソウル型0歳児専用クラス」を運営している。

資料: 1) <https://mediahub.seoul.go.kr/archives/2006902>

2) <https://iseoul.seoul.go.kr/portal/info/preSchoolList.do>

ソウル型隙間保育3種サービス

ソウル市は、特化事業として、政府支援の保育サービスの隙間を補完し、ソウル地域の子育て需要に合わせた質の高い保育サービス(幼児・通園・病児の専任保育士派遣)を提供。

・幼児専用ベビーシッターサービス

育児者が出産休暇または育児休業後に職場に復帰して発生した育児の空白を解消するために、満3か月～36か月以下の乳幼児に対する育児経験が豊富な乳幼児専任の保育士を派遣するサービスを提供

・登下校専任のケアサービス

共働きなど育児空白家庭の満0-12歳児童の保育園、幼稚園、塾、学校などへの登園・登校の事前準備、登下校同行、下校後の遊び活動など、登下校専任のベビーシッター派遣サービス提供

・病児専任のケアサービス

子育て空白家庭の満0-12歳の子どもが腹痛などの非感染性疾患の感染、予防接種・定期検診などで通院が必要な場合、病児専任の保育士による病院同行及び家庭内ケアサービスを提供

資料: 1) <https://news.seoul.go.kr/welfare/archives/546692>

2) https://icare.seoul.go.kr/icare/dolbomMENU2/dolbomMENU2_3/dolbomMENU2_3_1.jsp

ソウル市地域児童センター緊急・一時保育サービス

ソウル市地域児童センターでは、保護者の急な事情で短時間子どもの保育が必要な場合、最寄りの地域児童センターに小学生の子どもを預けることができる緊急・一時保育サービスを提供している。このサービスは、既存の登録児童以外の未登録児童を対象とする。緊急保育は1日単位で、一時保育は週・月単位で行われ、センターではケア、教育・遊びプログラム、給食・おやつなどを提供する。

資料: https://icare.seoul.go.kr/icare/user/fcltyInfoManage/BD_selectLocalCenterContactList.do?q_tap=1

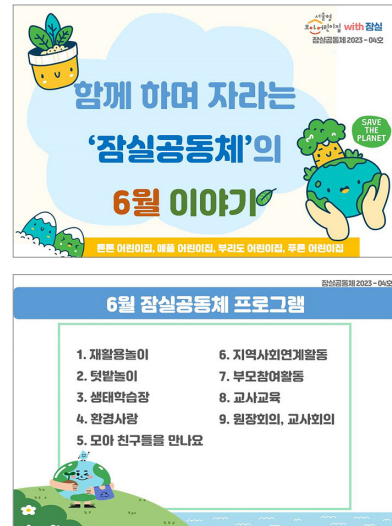
ソウル型連携保育園

ソウル型連携保育園は、近隣の3-5つの保育園を共有共同体として構成し、プログラムや空間などを共有して保育の質を向上させ、入園待機を共同で調整して運営の効率化を図ることで、保育園が互いに共存し、保護者と子どもに役立つ未来志向の保育モデルである。

ソウル型連携保育園の推進方向は次の通りである。

- 1) 人材(代替教師、補助教師など)と空間の共有、物品の共同購入などを通じて共同運営する
- 2) 保育園間の保育プログラムの共有、保育関連情報の共有を通じて専門性を強化する
- 3) 保護者参加プログラムやイベントなどを共同進行し、保護者の参加を活性化する
- 4) 森林体験園、公園、文化空間など保育園近隣の空間活用及び地域内の機関連携などを通じて地域ネットワークを強化する

資料: 1) <https://news.seoul.go.kr/welfare/archives/546692>
 2) <https://iseoul.seoul.go.kr/portal/info/content.do?page=0806>
 3) <https://iseoul.seoul.go.kr/portal/eco/shareCareCaseView.do?idx=11254&pageIndex=1&gubun=undefined>



養育者の仕事-生活のバランスを支援するソウル市の政策・サービス

ソウル型育児休業奨励金 엄마아빠 행복 프로젝트

ソウル市は、育児休業者の経済的負担を軽減し、育児休業の活性化を支援するため、2023年9月から「ソウル型育児休業奨励金」を支給する。この育児休業奨励金は、ソウル市に居住する雇用保険加入労働者で育児休業給付金を受給する中位所得150%以下の市民を対象とする。育児休暇開始後6か月が経過すると60万ウォンを支給し、12か月が経過するとさらに60万ウォンを支給し、計120万ウォンの育児休暇奨励金を支援する。

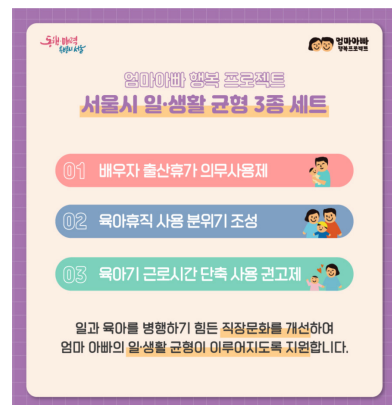
資料: <https://news.seoul.go.kr/welfare/archives/546668>

ソウル市仕事・生活バランス3種セット 엄마아빠 행복 프로젝트

ソウル市は、仕事と育児を両立しにくい職場文化を改善し、親の仕事と生活のバランスを支援するため、ソウル市の仕事・生活バランス3種セットを推進する。この3種セットは、配偶者(父親)の育児休暇義務使用制、育児休業使用雰囲気づくり、育児期労働時間短縮使用勧告制で構成される。ソウル市と市傘下の公共機関で3種セットを施行した後、民間企業への拡大を目指す。この事業を通じて、仕事-生活のバランスの取れた職場文化を造成し、出産・育児にやさしい環境を整えることに貢献することが期待される。

・配偶者出産休暇の義務使用制度

母親が出産したとき、父親が別途申請しなくても、事業主が父親に10日間の育児休暇を付与することを義務化



・育児休業を使用する雰囲気づくり

事業主が定期的に育児休業使用を書面で勧告し、育児休業による人事上の不利益を定期的にモニタリングし、育児休業後の復職者の業務適応を支援するための教育プログラムを設ける

・育児期労働時間短縮使用勧告制度

満8歳以下または小学校2年生以下の子供を持つ母親、父親労働者に事業主が育児期労働時間短縮の使用を定期的に勧告

資料: <https://news.seoul.go.kr/welfare/archives/553534>

2023 SEOUL
FAMILY
POLICY

子育て家族の余暇・文化支援 ソウル市政策・サービス

ソウル型キッズカフェ

ソウル市では、主に満0-9歳(施設ごとに利用対象が異なる)の子どもが季節や粒子状物質の有無などに関係なく遊べる室内遊び場を設け、保育スタッフを配置して遊びと保育サービスを同時に提供するソウル型キッズカフェを運営している。

資料: 1) <https://news.seoul.go.kr/welfare/archives/546692>
2) https://icare.seoul.go.kr/icare/user/kidsCafe/BD_selectKidsCafeList.do



ソウルママパパタクシー i.M(アイ.एम)

ソウルママパパタクシーi.Mは、24か月以下の乳幼児を同伴した外出、病院付近の外出など、移動が必要な時に移手段を提供する事業だ。車両に広い積載スペースとチャイルドシートを装備し、パワースライドドアで車両のドアを開閉することができ、乳幼児を連れた親が快適に移動できるようにする。2023年に16の試験自治区(江東、江北、江西、冠岳、広津、衿川、道峰、東大門、麻浦、瑞草、城東、城北、陽川、永登浦、龍山、中浪)で試験事業を行った後、2024年に全自治区に拡大する予定だ。i.Mアプリをダウンロードして会員登録後、ソウルママパパタクシーサービスを申請し、対象乳児の住民登録簿本など必要書類をアプリにアップロードすると、所属自治区で資格審査後、サービス承認及び利用ポイント(乳児1人当たりi.Mタクシー利用ポイント10万点)の支給を行う。その後、[i.M]アプリを通じてタクシーサービスの呼び出しや予約サービスの利用が可能だ。

資料: <https://www.imforyou.co.kr/pages/seoul-taxi.html>





ソウル家族の関係

01. 全般的な家族関係

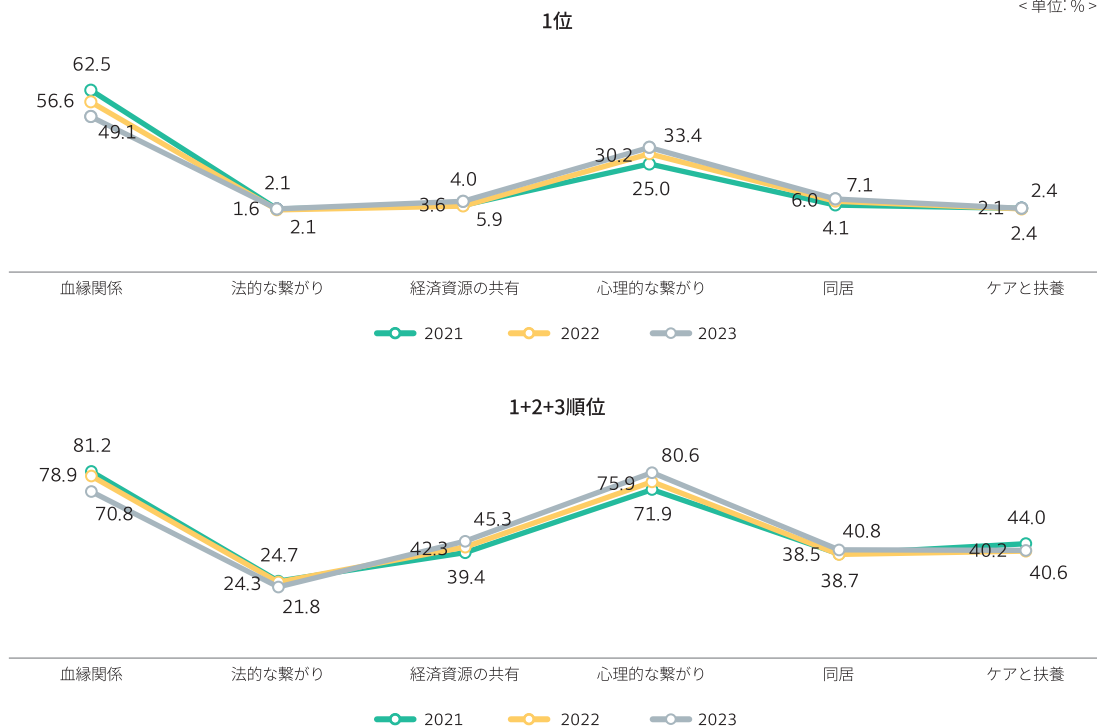


[ソウル家族サーベイ] 家族の属性

ソウル市民に家族の属性の中で最も重要だと思う側面を1、2、3の順位で回答させた結果(2021-2023年)、「血縁関係」の割合は減少し、「心理的な繋がり」の割合は増加した。1~3位に選んだ回答をまとめてみると、3年とも「血縁関係」を選んだ回答者が最も多く、次いで「心理的な繋がり」が続いた。

重要な家族の属性：全体1位および1-3位(2021-2023年)

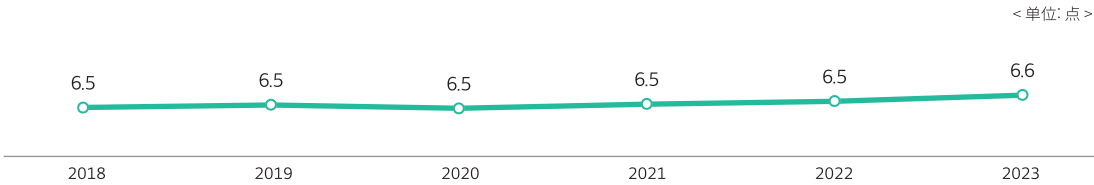
< 単位: % >



注: 各項目を選択した回答者の比率
資料: ソウル家族サーベイ、各年度

ソウル市民にとって家族の属性のうち「血縁関係」の重要性は減少し、「心理的な繋がり」の重要性は高まっています。

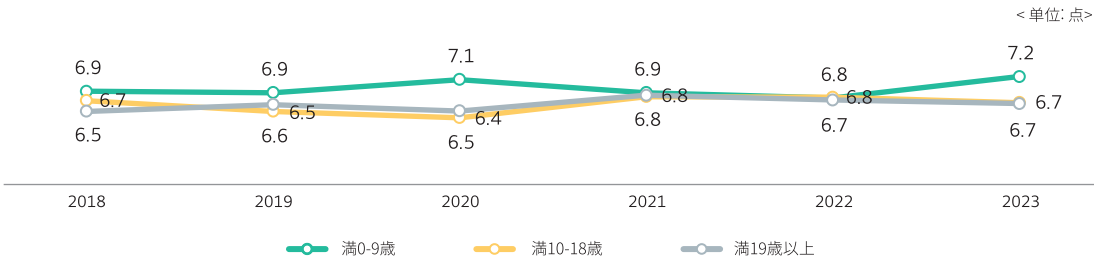
家族生活の幸福感：全体(2018-2023年)



資料: ソウル家族サーベイ、各年度

ソウル市民の家族生活の幸福感(範囲：1-9点)は、普通より高い水準を維持しています。

家族生活の幸福感：子どもの年齢層別(2018-2023年)



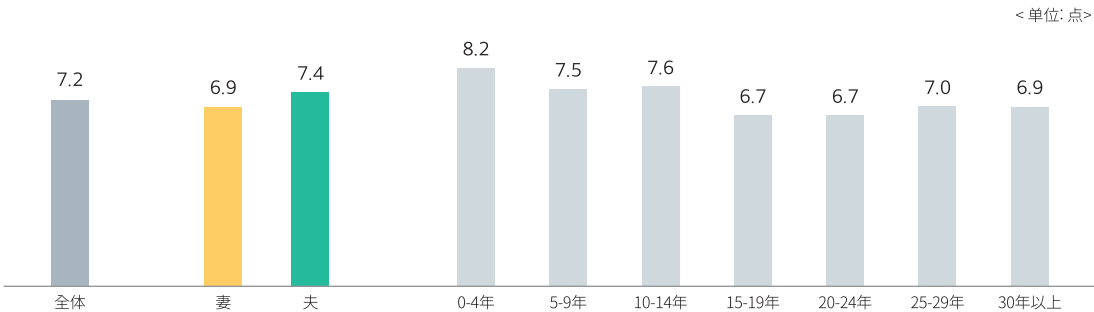
注: 子供の年齢は第1子を基準とする

資料: ソウル家族サーベイ、各年度(子供がいる回答者 2018年 620人; 2019年 844人; 2020年 888人; 2021年 765人; 2022年 773人; 2023年 700人)

第1子の年齢が満0-9歳のソウル市民は、第1子が満10-18歳、満19歳以上のソウル市民より家族生活が幸せだと感じています。

02. 夫婦関係

夫婦関係の幸福感：全体および性別、結婚継続年数別(2023年)



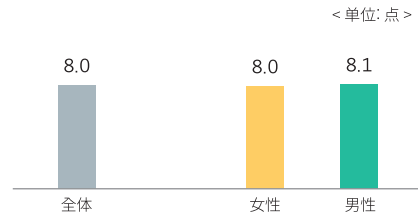
資料: 2023 ソウル家族サーベイ(妻 383人、夫 384人; 結婚継続年数 0-4年 88人、5-9年 78人、10-14年 117人、15-19年 84人、20-24年 106人、25-29年 102人、30年以上 192人)

既婚ソウル市民の夫婦関係の幸福感(範囲：1-10点)は平均7.2点。夫が妻より、結婚して0-4年の夫婦が15年以上の夫婦より夫婦関係が幸せだと認識しています。

✔ 恋人関係の幸福感

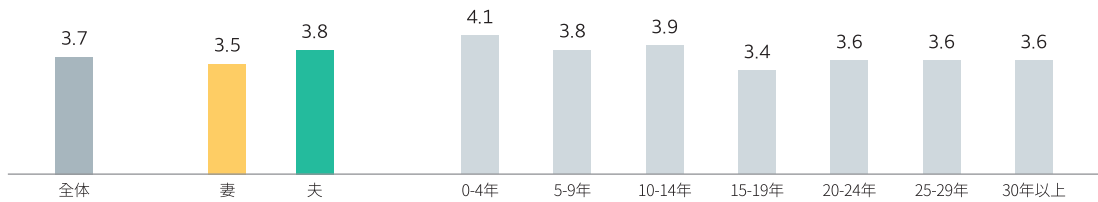
現在交際相手がいるソウル市民の恋人関係の幸福感は平均8点(範囲：1-10点)であった。夫婦関係の幸福感と比較すると、結婚して0-4年の夫婦の幸福感は恋人関係の幸福感よりわずかに高い。恋人関係の幸福感は男女差が統計的に有意ではなかったが、夫婦関係の幸福感は夫が妻より高かった。

資料：2023 ソウル家族サーベイ(現在交際中の相手がいるソウル市民294人)



夫婦関係の平等認識：全体および性別、結婚継続年数別(2023年)

< 単位: 点 >

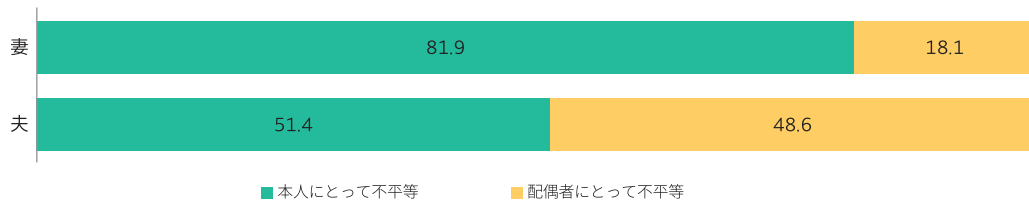


資料：2023 ソウル家族サーベイ(既婚者 妻 383人、夫 384人、結婚継続年数 0-4年 88人、5-9年 78人、10-14年 117人、15-19年 84人、20-24年 106人、25-29年 102人、30年以上 192人)

ソウル市民は、夫が妻より、結婚して0-4年の夫婦が15-24年、30年以上の夫婦より、自分の夫婦関係は平等だと考えています(範囲：1-5点)。

夫婦関係の不平等の様相：性別(2023年)

< 単位: % >



資料：2023 ソウル家族サーベイ(夫婦関係が平等ではないと回答した既婚者 妻 149人、夫 105人)

既婚のソウル市民は、男女ともに夫婦関係が自分にとって不平等であるという回答が、配偶者にとって不平等であるという回答より多くなっています。妻は10人中8人が夫婦関係が自分にとって不平等だと考えています。

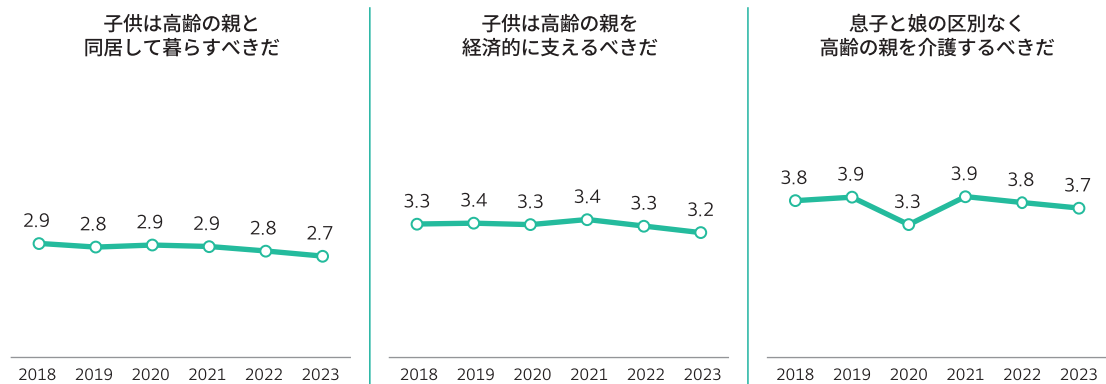
03. 親と子供の関係



[ソウル家族サーベイ] 両親の扶養に対する態度

両親の扶養に対する態度：全体(2018-2023年)

<単位: 点>

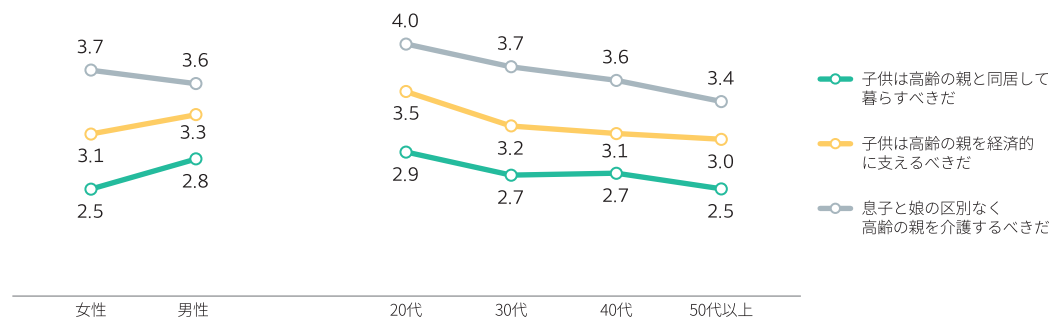


資料: ソウル家族サーベイ、各年度

高齢の親を子供が経済的に支えるべきだという認識(範囲: 1-5点)は普通よりやや高い水準であり、高齢の親と同居して暮らすべきだという認識(範囲: 1-5点)は普通よりやや低い水準です。高齢の親を介護する上で、息子と娘の区別があってはならないという点(範囲: 1-5点)には概ね同意しています。

親の扶養に対する意識：性別および年齢層別(2023年)

<単位: 点>



資料: 2023 ソウル家族サーベイ

ソウル市民は男性が女性より、年齢が低い集団が高い集団より高齢の親を子供が経済的に支えるべきだ(範囲: 1-5点)と考えています。

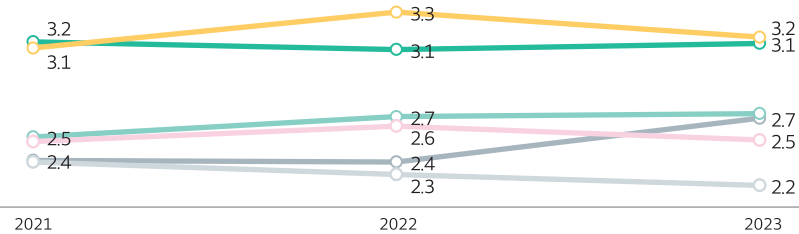


ソウル家族の生活

01. 経済生活および住居生活

普段の生活で困っていること：全体(2021-2023年)

< 単位: 点 >



- 低賃金、不安定な収入
- 住居費負担(家賃、マイホーム購入ローンの利息など)
- 住居環境問題(劣悪な住居環境、頻繁な引越しなど)
- 心の健康問題(孤独、憂鬱など)
- 病気や救急時の対処が難しい
- 安全問題(暴力、犯罪、有害施設、交通安全など)

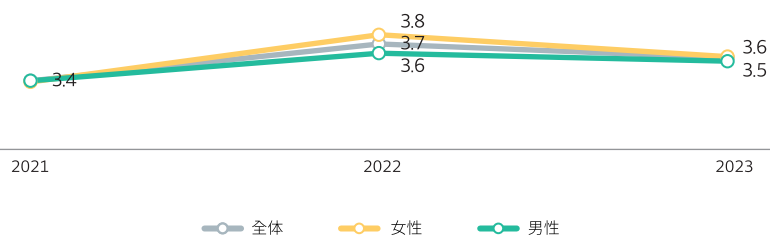
資料:ソウル家族サーベイ、各年度

ソウル市民は普段の生活で経験する困難(範囲：1-5点)のうち、「住居費負担」と「低賃金、不安定な収入」による困難が最も大きいとしています。

青年の将来展望：全体および男女別(2021-2023年)

< 単位: 点 >

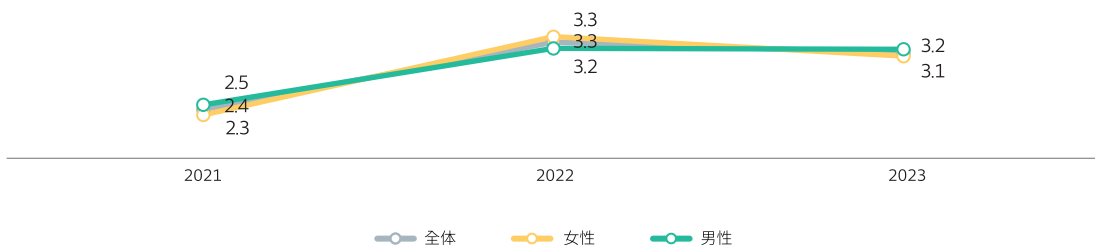
(いつか) 安定した職場に就職する可能性



- 全体
- 女性
- 男性

(いつか) マイホームを所有する可能性

<単位: 分>



注: 1) 2021年は「家を持つこと」、2022年と2023年は「マイホームを所有する可能性」を質問した

2) 2021年および2022年は自己所有の有無に関係ない20-39歳の回答であり、2023年は20-39歳でかつ無住宅者の場合の回答を分析した

資料: ソウル家族サーベイ、各年度(20-39歳、2021年 720人、2022年 746人、2023年は安定した職場 693人、マイホーム所有可能性 536人)

20-30代の青年ソウル市民は、将来安定した職に就く可能性は普通レベル以上、マイホームを所有する可能性は普通レベルと予想しています(範囲: 1-5点)。

02. 仕事と生活

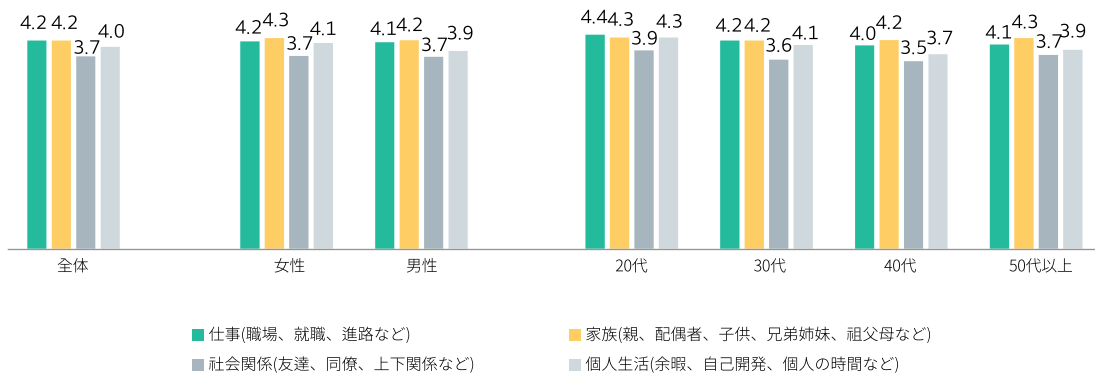


[ソウル家族サーベイ] 生活の領域別重要度

有給労働の領域である「仕事」とその他の領域を包含する意味で使われる「生活」について、ソウル市民が考える重要度を調べた。仕事以外の生活を家族、社会関係、個人生活に分けて調べた領域別の重要度(範囲: 1-5点)の平均は、「家族」(4.2点)、「仕事」(4.2点)、「個人生活」(4.0点)、「社会関係」(3.7点)の順だった。「仕事」の重要度が最も高かった20代を除き、全年代で家族を最も重要視していることが分かった。

生活の領域別重要度: 全体および性別、年齢層別(2023年)

<単位: 点>



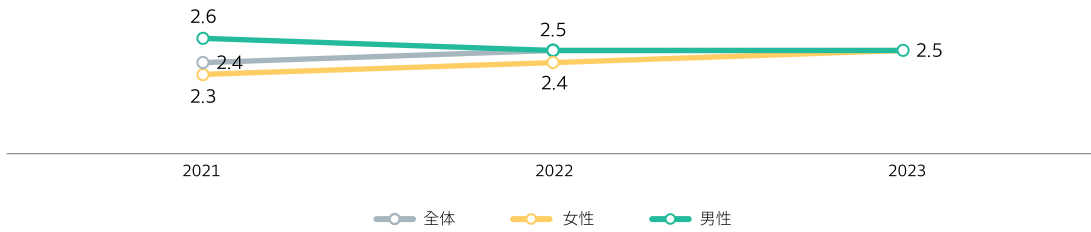
資料: 2023 ソウル家族サーベイ

20代は仕事を比較的重要視し、30代以上のすべての年齢層は家族を最も重要視しています(範囲: 1-5点)。

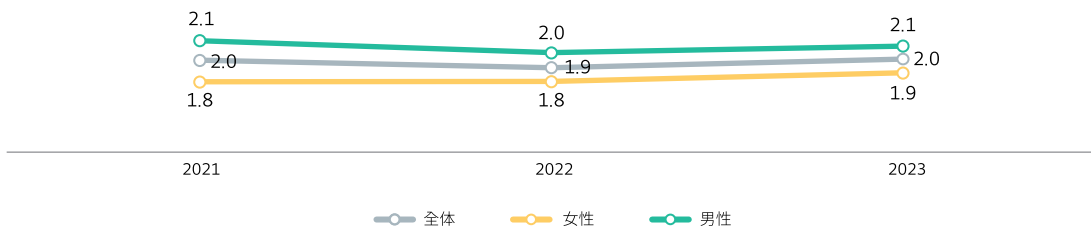
労働時間および労働場所の柔軟性：全体労働者および性別(2021-2023年)

<単位:点>

勤務時間をどの程度自由に調節できますか？



勤務地をどの程度自由に調節できますか？



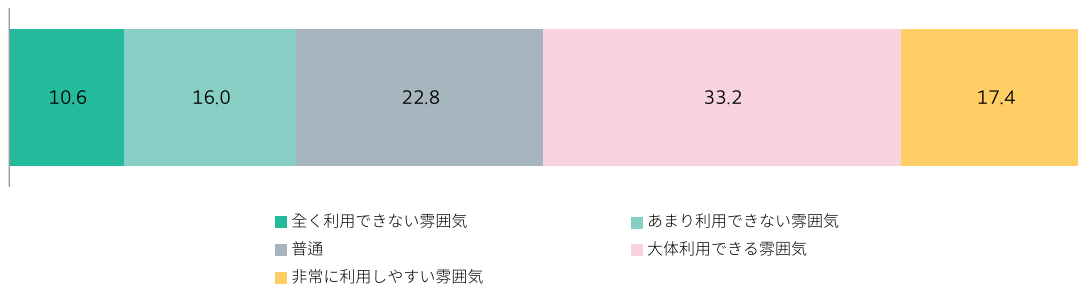
注: 点数が高いほど労働時間及び労働場所の柔軟性が高いことを意味するようにした(1=全く調整できない、2=大体調整しにくい、3=ある程度調整できる、4=常に調整できる)

資料: ソウル家族サーベイ、各年度

ソウル市在住労働者の労働時間の柔軟性は普通であり、勤務場所の調整は概ね難しいことがわかりました。(範囲：1-4点)

育児休業制度の利用可能性：全常用労働者(2023年)

<単位:%>

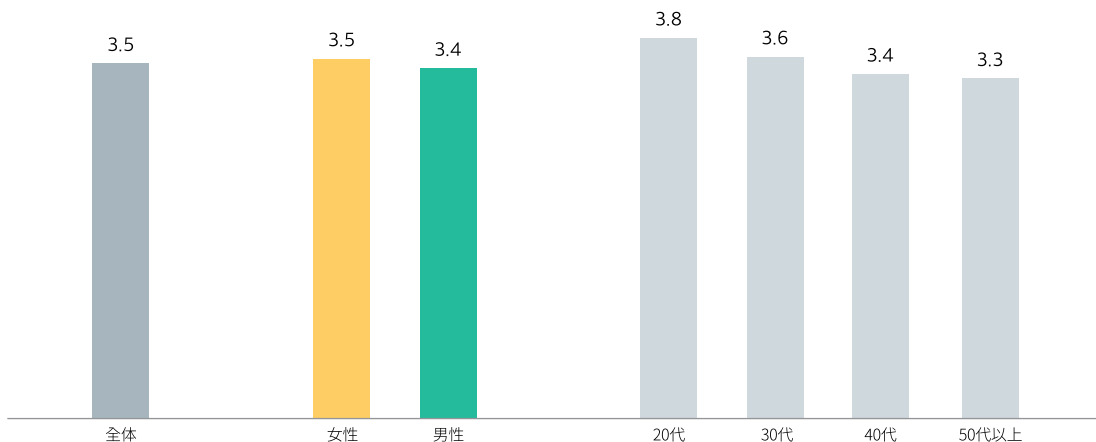


資料: 2023 ソウル家族サーベイ(常用労働者 905人)

ソウル市在住常用労働者の約半数は、現在の職場で育児休業制度を「大体」または「非常に」利用できると考えています。

家族親和的組織文化：全労働者、性別及び年齢層(2023年)

<単位: 点>



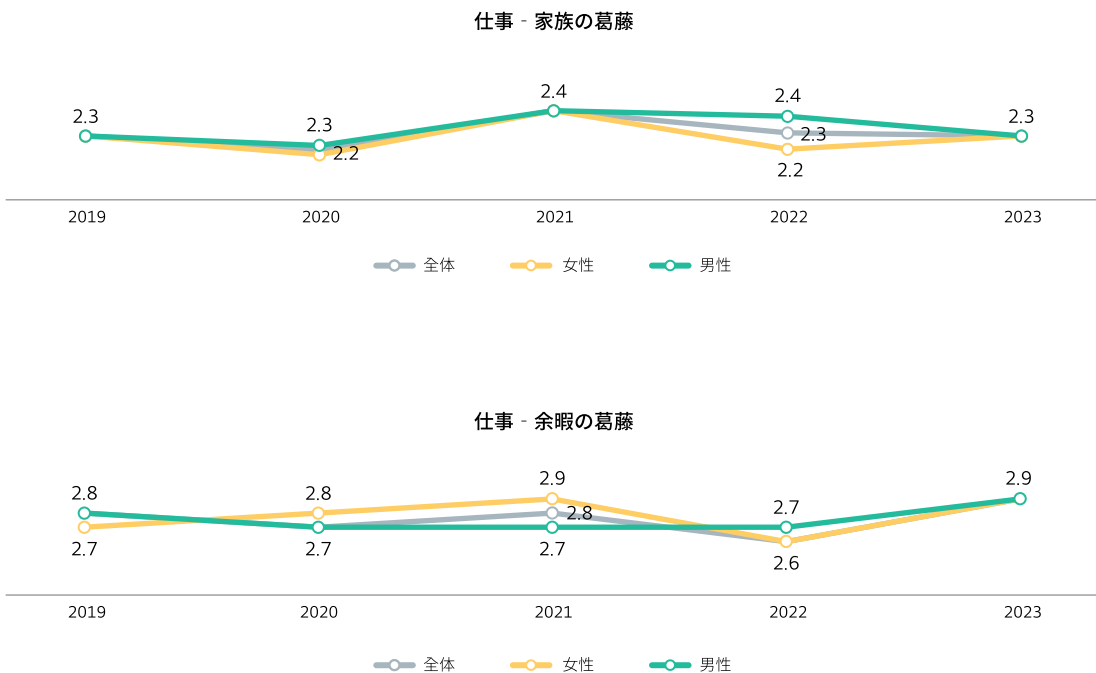
注: 1)「仕事より個人や家族のことを優先する従業員に冷たい視線を送る」、「個人や家族の問題で勤務時間を調整したり休暇を使ったりするのが難しい」、「勤務時間に家族に関することをしてはいけない」という暗黙のルールがある」の3項目の平均を使用した
 2) 点数が高いほど組織文化が家族親和的であることを意味するように逆算して分析した

資料: 2023ソウル家族サーベイ(過去1週間に有給で1時間以上働いた、または仕事があった回答者 1,178人)

現在の職場の組織文化が家族親和的かどうかを3つの項目で質問した結果、平均3.5点(範囲: 1-5点)で、ソウル市の労働者は現在の職場が普通より少し高いレベルで家族親和的だと考えています。

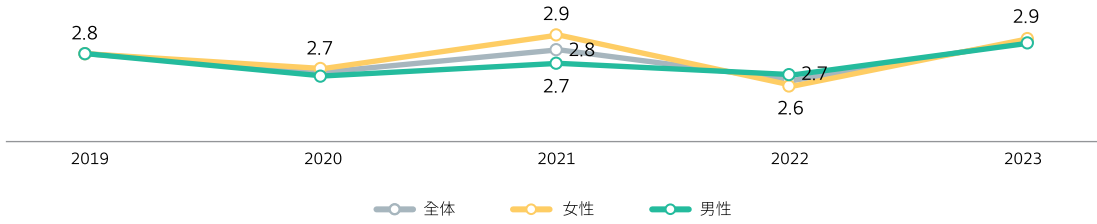
仕事-生活の葛藤：全体労働者および性別(2019-2023年)

<単位: 点>



仕事 - 成長の葛藤

<単位:点>

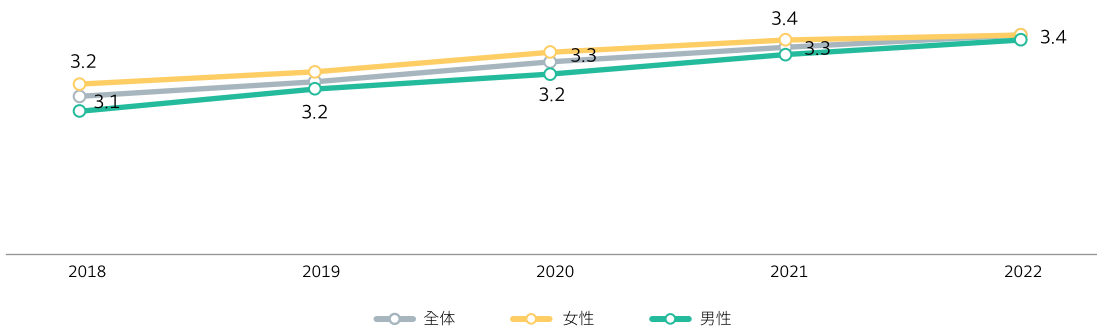


注：2019-2023年に使用された同一項目(仕事-家族の葛藤5問、仕事-余暇の葛藤5問、仕事-成長の葛藤5問)の平均を使用した
 資料：ソウル家族サーベイ(過去1週間に有給で1時間以上働いた回答者 2019年 1,138人、2020年 1,240人、2021年 1,227人、2022年 1,328人、2023年 1,176人)

ソウル市在住労働者の仕事と生活の葛藤のレベルは高くなく、仕事と家族の葛藤に比べて仕事と余暇の葛藤、仕事と成長の葛藤を比較的多く経験しています(範囲：1-5点)。

家族親和的都市：全体及び性別(2018-2022年)

<単位:点>



資料：ソウル家族サーベイ、各年度

ソウルが家族にとって住みやすく家族に優しい '市' だと思う(範囲：1-5点)
 ソウル市民が少しずつ増加する傾向にあります。

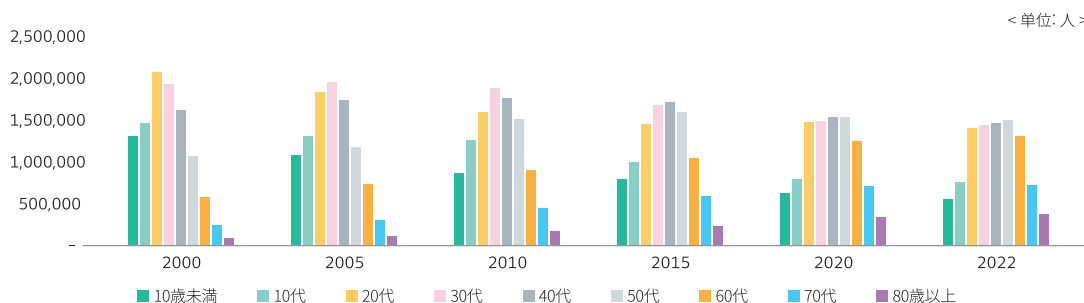
5



ソウル家族の現況

01. 人口および世帯

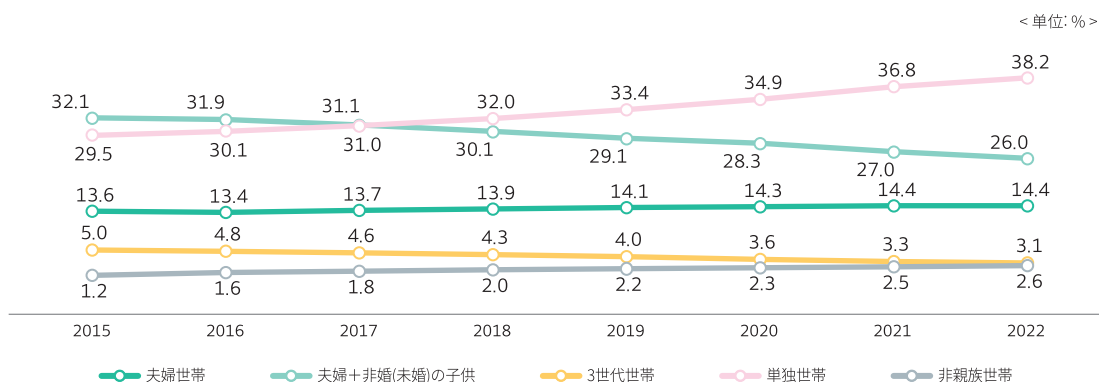
ソウル市年齢別人口(2000-2022年)



資料: 統計庁、人口動態調査、各年度

ソウル市の年齢別人口(2022年基準)は50代が1,476,712人で最も多く、ソウル市全体の人口の15.66%を占めています。次に40代1,449,706人(15.4%)、30代1,425,808人(15.1%)、20代1,389,483人(14.7%)、60代1,297,787人(13.8%)、10代749,118人(7.9%)、70代713,496人(7.6%)、10歳未満545,317人(5.8%)、80歳以上364,855人(3.9%)の順です。2003年までは20代、2004年から2014年までは30代、2015年から2020年までは40代が最も高い割合を占め、2021年からは50代の割合が最も高くなっています。

ソウル市世帯形態別世帯数(2015-2022年)



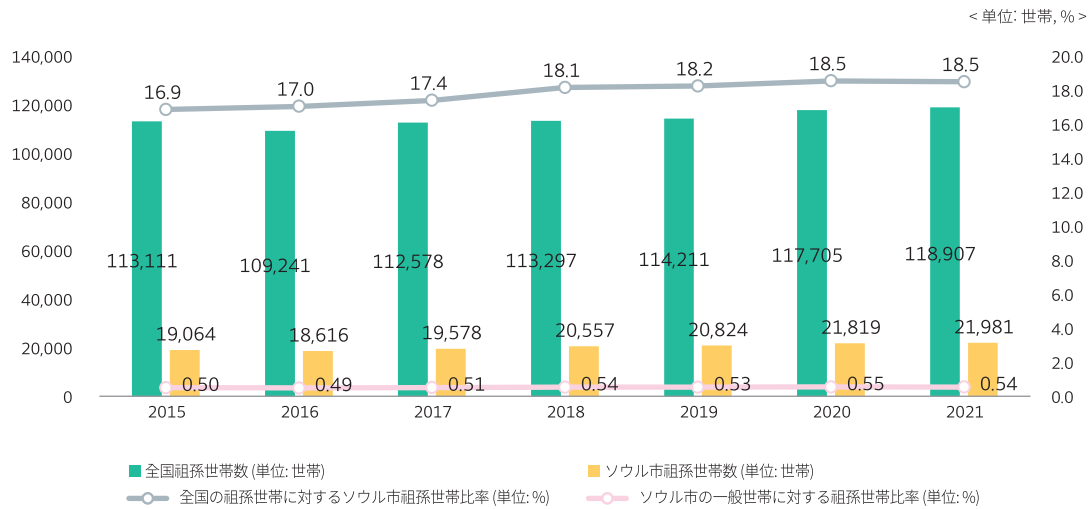
資料: 統計庁、国勢調査、各区年度

ソウル市の世帯形態別では、夫婦と非婚(未婚)の子供で構成された世帯の比率は持続的に減少し、単独世帯の比率は持続的に増加しています。

単独世帯が1,564,187世帯(38.2%)で最も多く、次に夫婦と非婚(未婚)の子供で構成された世帯1,067,097世帯(26.0%)、夫婦世帯590,521世帯(14.4%)、3世代世帯125,014世帯(3.1%)、非親族世帯107,951世帯(2.6%)の順となっています。

02. 祖孫世帯、青少年母(父)

ソウル市祖孫世帯数(2015-2021年)



注: 1) 祖孫世帯は、祖父母と法的に結婚していない孫で構成される祖孫世帯(以下「祖父母+未婚孫世帯」と、祖父または祖母のどちらかと未婚の孫で構成される祖孫世帯(以下「祖父(母)+未婚孫世帯」)に分類される

2) 一般世帯とは、家族で構成された世帯、家族と5人以下の男女が一緒に暮らす世帯、単身世帯、家族以外の男女が一緒に暮らす5人以下の世帯を含む。一般世帯内の外国人も含む

資料: 統計庁、国勢調査、各年度

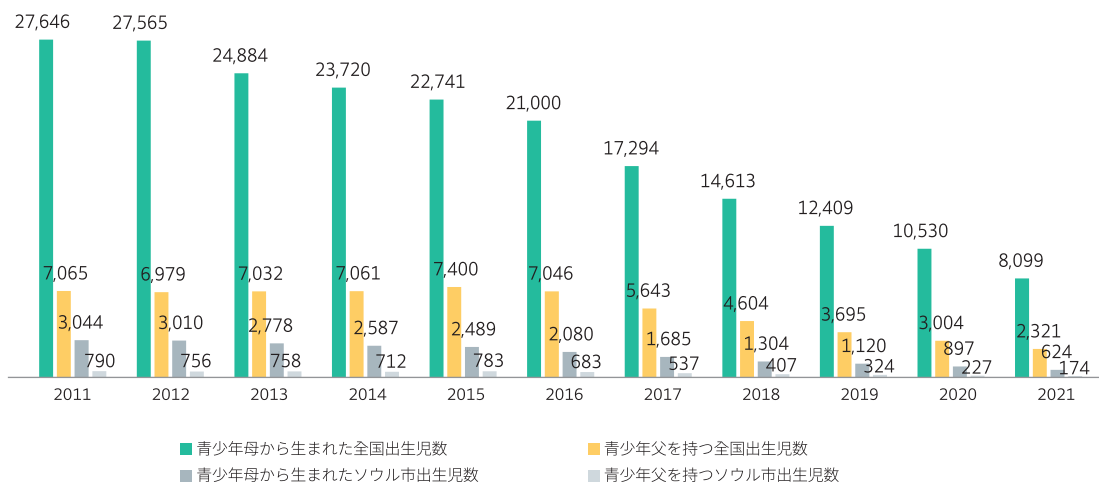
全国の祖孫世帯の18.5%である21,981世帯がソウル市に居住しています(2021年基準)。

ソウル市の祖孫世帯は2016年以降、微増傾向にあります。ソウル市全体の一般世帯に占める割合は約0.5%を維持しています。

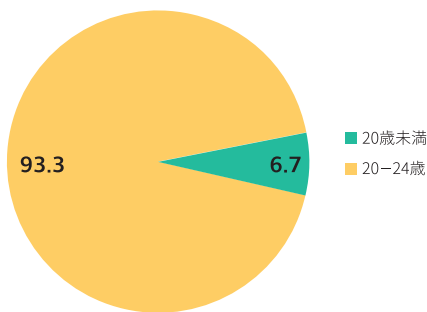
ソウル市青少年母(父)の出生児数(2011-2021年)

< 単位: 人, % >

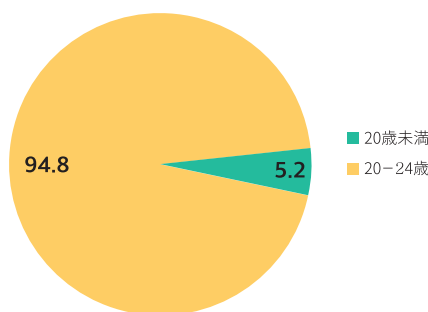
全国およびソウル市青少年母(父)の出生児数(2011-2021年)



青少年母の年齢別出生児数(2021年)



青少年父の年齢別出生児数(2021年)



注: 1) 青少年親とは、子どもを養育する親が共に青少年(9歳以上24歳以下)である場合を意味する(青少年福祉支援法第2条第6項、青少年基本法第3条第1項)。青少年保護者に対する公式的な統計は提示されていないため、本グラフでは、母と父の年齢が24歳以下の場合の出生率を算出した。年齢が24歳以下の場合の出生児数の統計をそれぞれ提示する

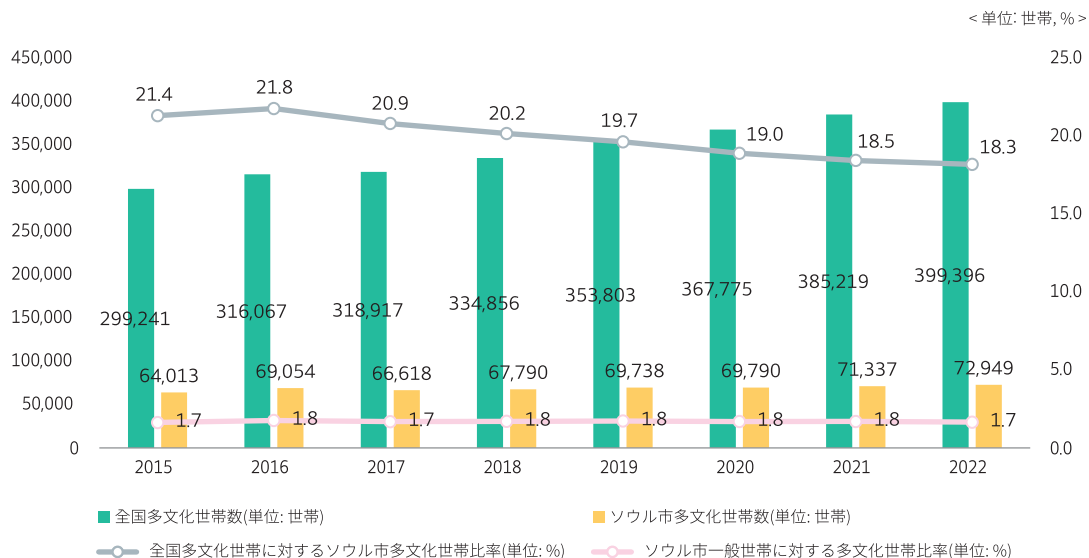
2) 青少年母は24歳以下の母を意味し、青少年父は24歳以下の父を意味する

資料: 統計庁、人口動態調査、各年度

ソウル市の出生児45,531人のうち、624人(1.4%)は母親が青少年(9-24歳)、174人(0.38%)は父親が青少年(9-24歳)です(2021年基準)。しかし、青少年母・父のうち未成年者は多くありません。9-24歳の母親を持つ出生児の6.7%(42人)、9-24歳の父親を持つ出生児の5.2%(9人)が20歳未満の母親、父親です。

03. 多文化世帯

ソウル市の多文化世帯数(2015-2022年)



注: 1) 多文化世帯とは、帰化して国籍を取得した者、または外国人が韓国人(帰化者を含む)の配偶者と結婚して構成されるか、またはその子どもが含まれる世帯を意味する

2) 一般世帯とは、家族で構成された世帯、家族と5人以下の男女と一緒に暮らす世帯、単独世帯、家族以外の男女と一緒に暮らす5人以下の世帯を含む。一般世帯内の外国人も含む

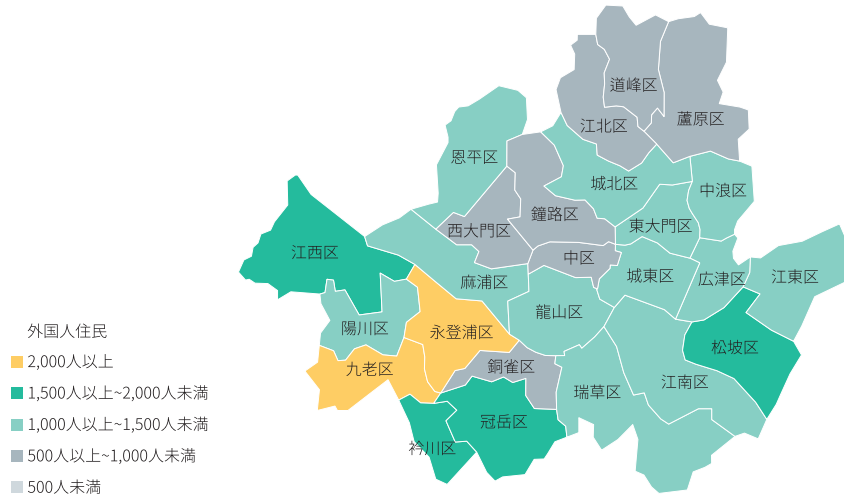
資料: 統計庁、国勢調査、各年度

全国の多文化世帯の18.3%にあたる72,949世帯がソウル市に居住しており、これはソウル市の一般世帯の1.7%に相当する数値です(2022年基準)。

ソウル市結婚移民者の分布：自治区別(2021年)

<単位:人>

結婚移民者分布(2021)



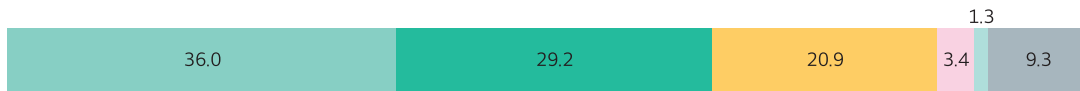
資料: 行政安全部, 地方自治体の外国人住民現況, 2021

九老区と永登浦区に最も多くの結婚移民が居住し、そのほか、衿川区、冠岳区、江西区、松坡区、広津区、東大門区などに比較的多くの結婚移民が居住しています(2021年基準)。

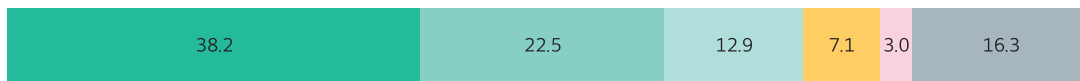
ソウル市の帰化者及び結婚移民者の比率：出身国別(2022年)

<単位: %>

出身国家別帰化者の比率



出身国家別結婚移民者の比率



■ ベトナム ■ 中国 ■ 日本 ■ 韓国系中国人 ■ モンゴル ■ その他

注: 1) 結婚移民者とは、大韓民国で生まれた内国人または国籍法に基づき帰化により国籍を取得した内国人と結婚した外国人を意味する

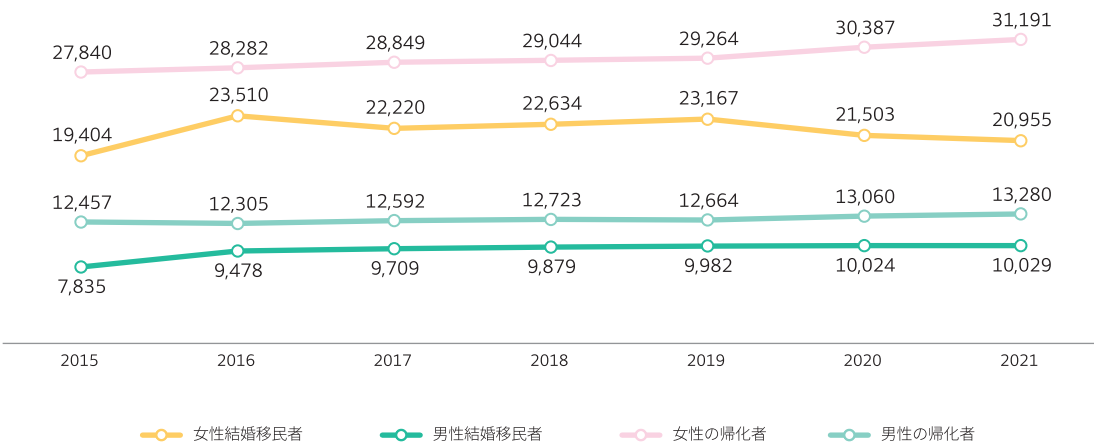
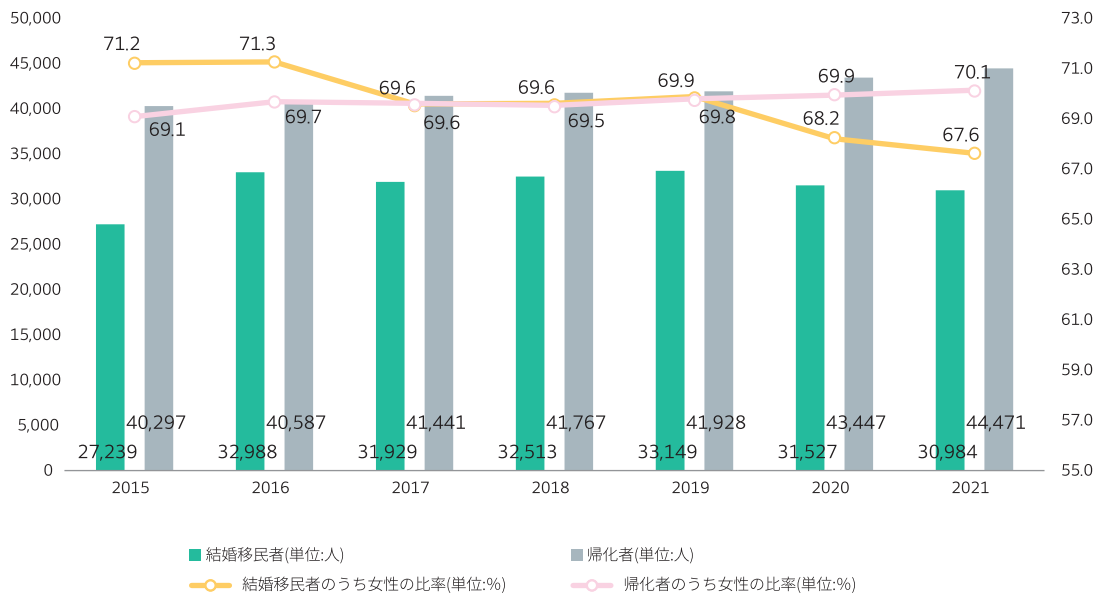
2) 帰化者とは、国籍法に基づく帰化による国籍取得者で、現在大韓民国国民である者を意味する

資料: ソウル市、ソウル市外国人住民・多文化家族実態調査研究、2022

2022年ソウル市多文化家族実態調査によると、ソウル市に居住する「帰化者」の出身国は、中国(36%)>ベトナム(29.2%)>韓国系中国人(20.9%)>モンゴル(3.4%)>日本(1.3%)の順(2022年基準)。ソウル市に居住する「結婚移民者」の場合、ベトナム人(38.2%)>中国人(22.5%)>日本人(12.9%)>韓国系中国人(7.1%)>モンゴル人(3.0%)の順。

ソウル市の結婚移民者および帰化者数：性別(2015-2021年)

<単位: 人, %>



注:1) 結婚移民者とは、大韓民国で生まれた内国人または国籍法に基づき帰化により国籍を取得した内国人と結婚した外国人を意味する

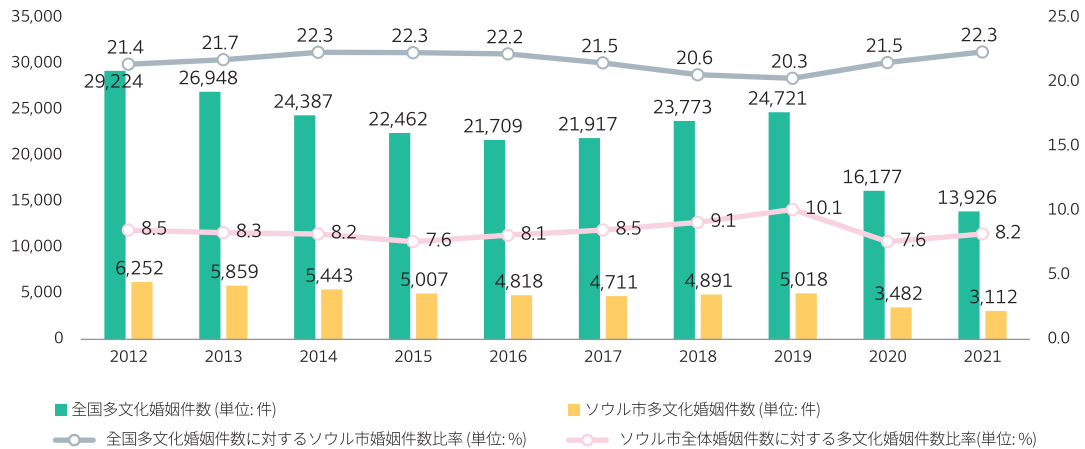
2) 帰化者とは、国籍法に基づく帰化による国籍取得者で、現在大韓民国国民である者を意味する

資料: 統計庁、国勢調査、各年度

ソウル市の多文化世帯の構成員のうち、結婚移民者は30,984人、帰化者は44,471人(2021年基準)。結婚移民者のうち67.6%、帰化者のうち70.1%が女性です。

ソウル市の多文化婚姻件数(2012-2021年)

<単位: 件, %>

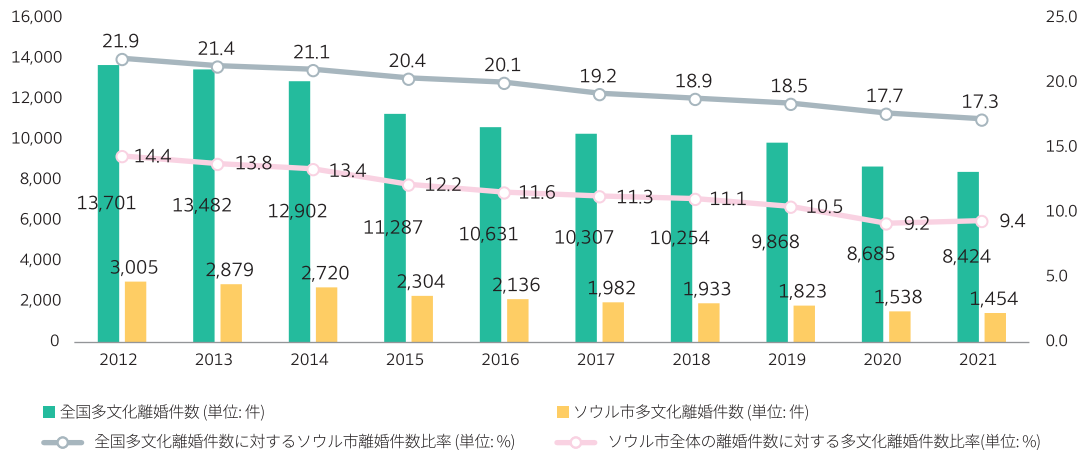


注: 多文化婚姻とは、帰化・認知による国籍取得者と外国籍者が含まれる「多文化家族」の「人口(個人)」別の婚姻事件を意味する
資料: 統計庁、人口動態調査、各年度

ソウル市多文化婚姻件数は、ソウル市全体の婚姻件数の8.2%にあたる3,112件(2021年基準)。ソウル市の多文化婚姻件数は、コロナ19が始まった2020年以降減少しました。

ソウル市の多文化家庭の離婚件数(2012-2021年)

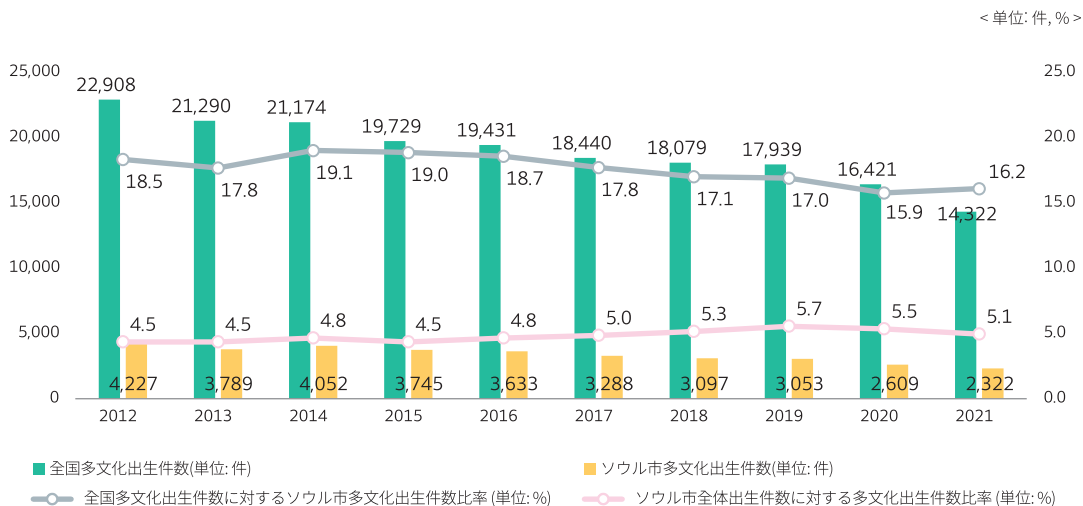
<単位: 件, %>



注: 多文化離婚とは、帰化・認知による国籍取得者と外国籍者が含まれる「多文化家族」の「人口(個人)」別の離婚事件を意味する
資料: 統計庁、人口動態調査、各年度

ソウル市の多文化家庭の離婚件数は、ソウル市全体の離婚件数の9.4%にあたる1,454件(2021年基準)。ソウル市の多文化離婚件数は2012年以降、継続的に減少しています。

ソウル市の多文化出生数(2012-2021年)

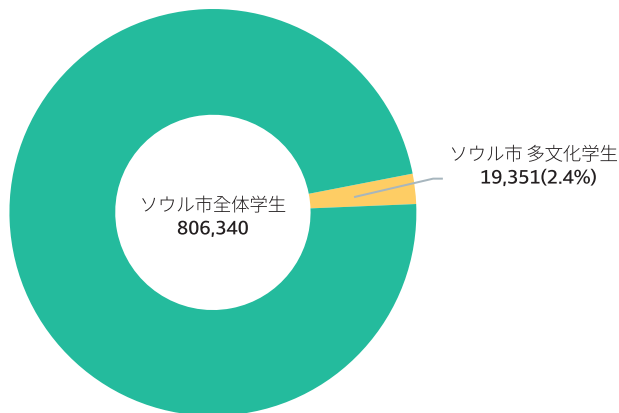


注: 多文化出生とは、帰化・認知による国籍取得者と外国籍者が含まれる「多文化家族」の「人口(個人)」別の出生事件を意味する
 資料: 統計庁、人口動態調査、各年度

ソウル市の多文化出生件数は、ソウル市全体の出生件数の5.1%にあたる2,322件(2021年基準)。ソウル市の多文化出生件数は2014年以降、持続的に減少しています。

ソウル市の多文化小・中・高校生数(2022年)

<単位: 人>



注: 多文化学生数は国際結婚家庭の子どもと外国人家庭の子どもの合計で計算する。国際結婚家庭の子どもは韓国人の父(母)と外国人の母(父)の間に生まれた子どもを意味し、外国人家庭の子どもは外国人の間に生まれた子どもを意味する

資料: 韓国教育開発院教育統計サービス, 学年別学級数及び学生数, 2022.
 韓国教育開発院教育統計サービス, 多文化(タイプ別)学生数, 2022.

ソウル市在住の多文化小・中・高校生は19,351人で、これはソウル市の全小・中・高校生数の2.4%に相当します(2022年基準)。

学校別のソウル市多文化小・中・高校生の分布(2022年)

<単位: 人, %>



注: 1) 多文化学生数は、国際結婚家庭の子どもと外国人家庭の子どもの合計で計算する。国際結婚家庭の子どもは韓国人の父(母)と外国人の母(父)の間に生まれた子どもを意味し、外国人家庭の子どもは外国人の間に生まれた子どもを意味する

2) 小学校、中学校、高等学校に該当しない各種学校(例: 代替学校など)の学生数は含まない。ソウル市在住各種学校の多文化学生数は162人(2022年基準)

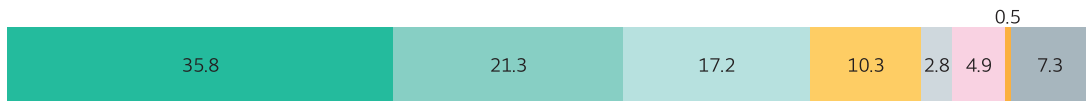
資料: 韓国教育開発院教育統計サービス、多文化(タイプ別)学生数、2022年

ソウル市の多文化小・中・高校生のうち、小学生が66.0%(12,779人)、中学生が22.7%(4,393人)、高校生が11.3%(2,179人)を占めています(2022年基準)。

多文化家族の親が子育てで感じる困難(2022年)

<単位: %>

ソウル市居住帰化者である親が子育てで感じる困難



ソウル市居住結婚移民者である親が子育てで感じる困難



- 教育費、お小遣いなど子供にかかる費用が負担
- 子供の学業、進学、進路などに対する情報不足
- ゲーム、スマートフォン、インターネット使用などに対する子供との葛藤
- 保護者会、ボランティア活動など保護者活動への参加の難しさ
- 子供の学習指導、学業管理の難しさ
- 子供との会話不足
- 特にない
- 子供の飲酒、喫煙、家出などの問題

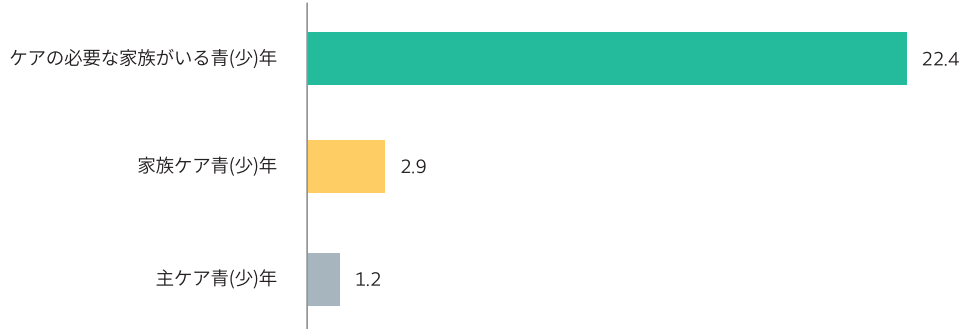
資料: ソウル市、ソウル市多文化家族実態調査、2022.

2022年のソウル市多文化家族実態調査によると、帰化者と結婚移民者ともに、教育費、お小遣いなど子どもにかかる費用の負担を子育てで最も難しい点として挙げました。次に帰化者は、子どもの学業、進学、進路などに関する情報不足(21.3%)、子どもの学習指導、学業管理の難しさ(17.2%)、子どもとの会話不足(10.3%)の順でした。結婚移民者は、子どもの学習指導、学業管理の難しさ(20.5%)、子どもの学業、進学、進路などに関する情報不足(17.3%)、子どもとの会話不足(8.3%)の順でした。

04. 家族ケア青(少)年

全国家族ケア青(少)年推計推定値(2022年)

<単位: %>



注: 1) ケアを必要とする家族がいる青(少)年とは、13-34歳の青(少)年のうち、ADL(activities of daily living)またはIADL(instrumental activities of daily living)に制約がある家族がいると回答した青(少)年を意味する

2) 家族ケア青(少)年とは、ケアを必要とする家族がいる青(少)年のうち、その家族をケアしていると回答した青(少)年を意味する

3) 主ケア青(少)年は、家族ケア青(少)年のうち、自分が主ケアラーだと回答した青(少)年を意味する

資料: 韓国保健社会研究院、家族ケア青(少)年実態調査及び支援策研究、2022.

2022年の韓国保健社会研究院の調査によると、全国13-34歳の青(少)年回答者3万5,101人のうち22.4%はケアを必要とする家族がいる青(少)年であり、2.9%は家族をケアする青(少)年、1.2%は主ケアの青(少)年でした。

ソウル市家族ケア青(少)年推定値(2022年)

<単位: %>



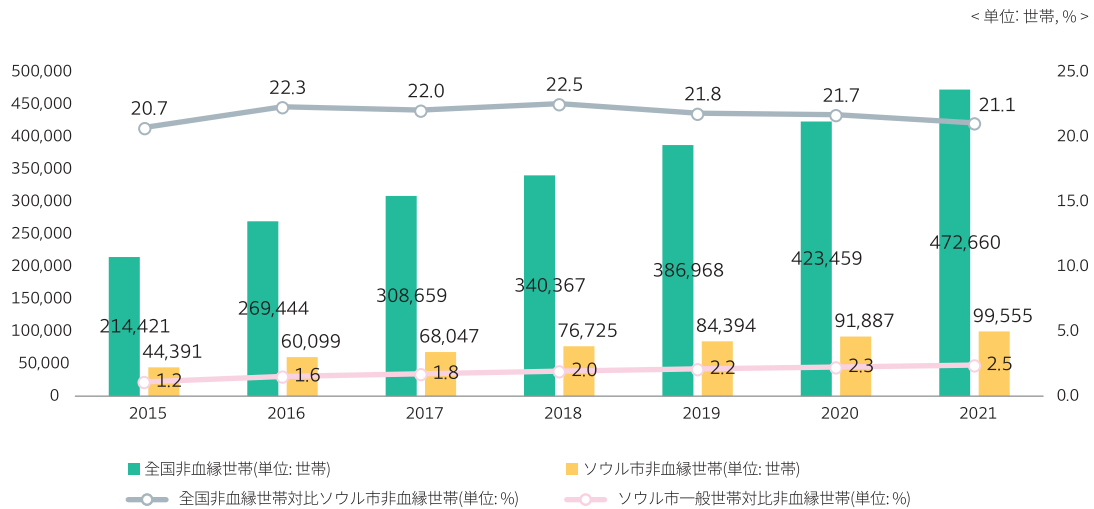
資料: チョン・アルム(2023,4,19)ソウル市、「家族ケア青年」900人見つけた。支援策を推進

<https://www.ibabynews.com/news/articleView.html?idxno=110781>

2022年ソウル市家族ケア青年実態調査の回答者であるソウル市在住の14-34歳青(少)年2,988人のうち30.1%が家族ケア青(少)年でした。

05. 非血縁世帯

ソウル市の非血縁世帯数(2015-2021年)



注: 1) 非血縁世帯とは、家族以外の人と一緒に暮らす5人以下の世帯である。非血縁者6人以上の世帯は集団世帯として別途分類する

2) 一般世帯とは、家族で構成された世帯、家族以外に5人以下の男女と一緒に暮らす世帯、1人世帯、家族以外の人と一緒に暮らす5人以下の世帯(非血縁世帯)を含む。一般世帯内の外国人も含む

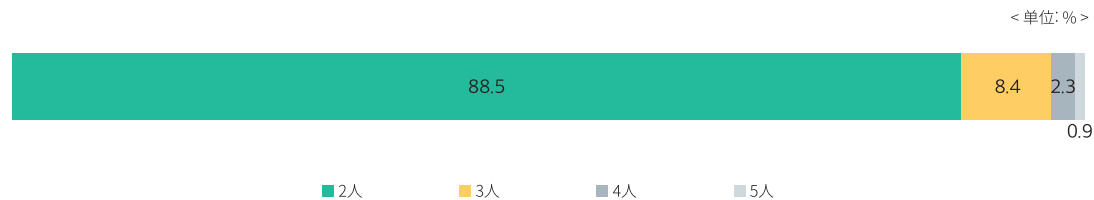
資料: 統計庁、国勢調査、各年度

36

全国の非血縁世帯の21.1%(99,555世帯)がソウル市に居住しています。

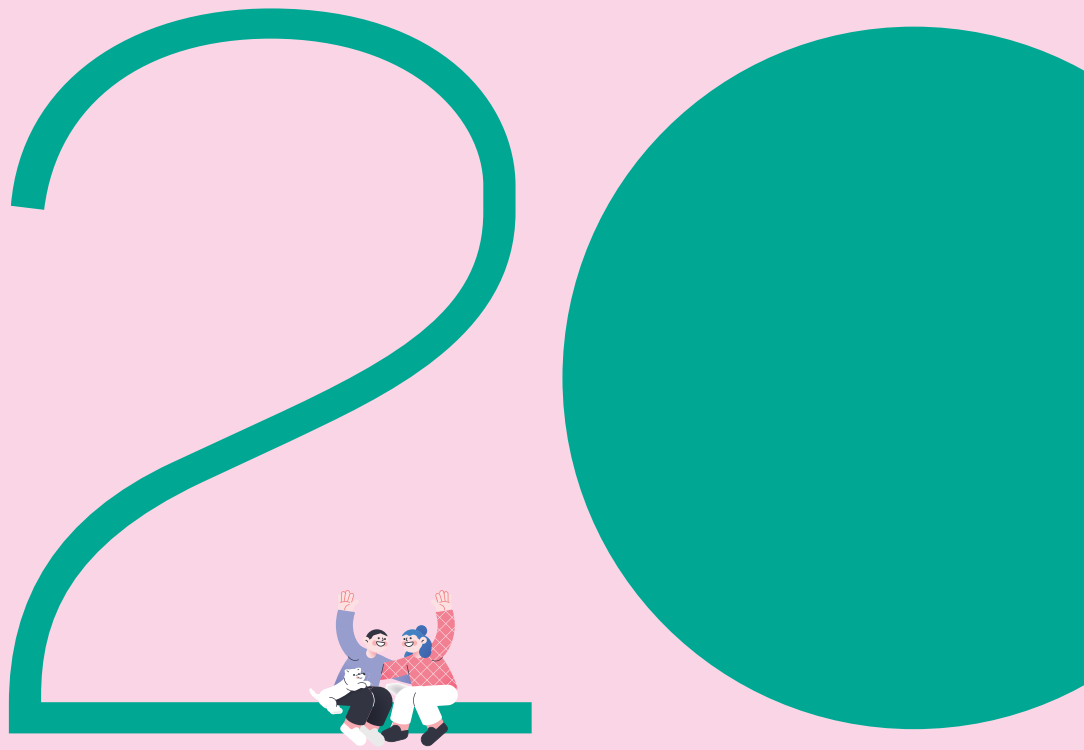
これはソウル市一般世帯の2.5%に相当(2021年基準)し、ソウル市の非血縁世帯の数と割合は持続的に増加しています。

ソウル市非血縁世帯の世帯員数(2021年)



資料: 統計庁、国勢調査、2021

ソウル市の非血縁世帯の平均世帯員数は2.2人で、2人で構成された非血縁世帯が88.5%で最も多い割合を占めています(2021年基準)。



서울시가족센터
SEOUL FAMILY CENTER